

平成24年度 自己点検・評価報告書

—入試改革・FD活動・各種アンケートの分析について—

平成25年9月
弓削商船高等専門学校

はじめに

平成16年度に独立行政法人国立高等専門学校機構（以下高専機構）として全国の国立高専が組織化され、第1期中期計画について平成20年度までの5年間の実践報告がまとめられた。本校も、高専機構の中期計画との整合性を図りながら、5年間で実施した教育・研究活動を弓削商船高等専門学校第1期中期計画実施報告書にまとめた。

平成24年度は第2期中期計画の4年目となるが、本校では、高専機構中期計画期間の重点課題や第1期中期計画の総括を踏まえてさまざまな活動を展開してきた。自己点検・評価については毎年度実施しており、その都度報告書を作成していることから、自己点検評価委員会で自己点検・評価のテーマを絞って実施している。平成23年度は中期計画、高専間連携及び管理運営について実施し報告書を作成した。平成24年度においては、中期計画、入試制度の改革、FD活動、各種アンケートの分析についての現状や成果と課題をテーマにし、自己点検・評価を行った。これらの自己点検・評価項目の中から、教育研究活動や管理運営等における一層の改善が必要な事項については、現状及び課題の状況報告を行い、外部評価機関である運営諮問会議委員から意見をいただいている。

平成23年度の第8回運営諮問会議で、「多様化する学生への支援について」と称して学習支援、キャリア支援、寮生活の支援を諮問し、委員の方々から貴重なご提言をいただいた。その内容を改善する事項として真摯に受け止め、本校の提言に対する対応や改善状況をまとめた。

今年度は、第9回運営諮問会議を開催し、「高専間の連携について」及び「学校の管理運営について」の2項目を諮問し、ご審議いただいた内容とご提言を記載した。

本校では、地域社会等と連携強化を図り、優れた入学者の確保、教育の高度化、施設・設備の整備による教育環境の充実等に向けて改革を進め、社会からの要請に応えるようにしていきたい。今後とも常に自己点検と自己改革・改善を精力的に行っていく所存であり、本報告書に対して外部の方々から忌憚のないご意見を仰ぐことで、更なる改善に反映させていきたいと考えております。

平成25年9月

弓削商船高等専門学校長
木村隆一

目 次

1. 第9回運営諮問会議（平成24年度）の報告	1
1-1 第8回運営諮問会議（平成23年度）の提言と本校の対応	1
(1) 第8回運営諮問会議（平成23年度）の提言	1
(2) 提言に対する本校の対応	2
(3) 本校の対応への意見	5
1-2 第9回運営諮問会議（平成24年度）諮問事項と提言	7
(1) 第9回運営諮問会議（平成24年度）諮問事項	7
(2) 審議内容	13
(3) 提言	18
2. 平成24年度中期計画と実施状況	19
3. 入試制度の改革及び成果と課題	20
4. FD活動のまとめと課題	21
5. 各種アンケートの分析及び評価と課題	22
(1) 教育方針・教育目標について	22
(2) アドミッションポリシーについて	23
(3) シラバス活用について	23
(4) 学習到達度について	24
(5) 卒業（修了）生及び就職先企業からの意見	25
6. 施設・設備	26
(1) 運営費交付金事業（営繕事業）	26
(2) 運営費交付金（学内経費）	26
	⋮
資料編	27

1. 第9回運営諮問会議（平成24年度）の報告

本項では第8回運営諮問会議（平成23年度）で受けた提言とその取り組み状況、第9回運営諮問会議（平成24年度）諮問事項及び審議内容と提言について報告する。



1-1. 第8回運営諮問会議（平成23年度）の提言と本校の対応

(1) 第8回運営諮問会議（平成23年度）の提言

前回（平成23年12月19日開催）の会議において、1項目の諮問事項に対して、下記のとおり提言した。

ア 多様化する学生への支援について

多様化する学生への支援は、初等・中等教育段階からの課題となっていることを念頭に置いて、高専においても多面的な支援が必要であると考えられます。学生への支援は、学校が全体計画を立て、中・長期的な視野で取り組んで行くことを提案します。

今回の個々の諮問内容について、以下のとおり提言します。

学習支援については、集団での指導だけでなく個別指導も必要であり、教員の資質向上を図ることや学生の実情を把握してTAの活用などを充実させる等の支援により、5年間を通して学生の育成を図ることを提案します。

キャリア支援については、1年生の段階から社会との関わりを意識させ、具体的に目標を持たせることによって、希望する進路へ向けての支援を継続的に行うことが肝要です。関連企業へのインターンシップや現場に携わっている人達と触れ合う機会等の中で自分の特性を發揮し、生き方を見出させる支援に繋げることを提案します。

寮生活の支援については、共同生活の中で寮生同士が交流を深めながら、挨拶を

始めとする基本的な生活習慣の涵養を図ることが、実社会へ出た時の評価に繋がります。寮生数の増加への対応は、教員の業務の負荷を考慮しつつ生活面のアメニティーに対してはしっかりとした快適な環境を造り、留学生への対応も取り込んで、中学生にとって入りたいと思う寮の新棟建築を目指すことを提案します。

(2) 提言に対する本校の対応

第8回運営諮問会議の提言に対する学校の対応として、以下のことを確認した。これらのことは今後も継続して努力されることを希望する。

ア 多様化する学生への支援について

(ア) 提言に対する対応

a 学習支援について

- ・ 最初に諮問事項にも関係しますので、全体的な話として学校の教育方針等の説明をします。

高等専門学校としての目的として、学校教育法に「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」と定められている。これを受けて、学校の目的は同表現で学則に定められており、その目的に応じて本校の特色を活かした教育方針を3点定めている。また、養成しようとする人物像を明確化するために、各学科及び専攻科ごとに教育目標を定めている。

- ・ 平成23年1月に中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」答申があり、これに対して、平成24年4月に高専機構から「今後の国立高専の在り方について」(中間まとめ)が出され、これまで高専が果たしてきた役割を踏まえて、今後の高専の目指すべき方向性が示された。全国に5校ある商船学科を有する高専については、カリキュラムや教材の開発、関連業界との連携、教育設備等の共同活用などの連携強化を進めるとともに、より効果的な教育組織体制の在り方を検討していくことが課題であるとされている。

上記の課題に対応するため、商船系5高専が共同で計画立案し、(一社)日本船主協会、(一社)全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会の海事関連団体と連携して、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」とした申請を行い、平成24年度から5年間のプロジェクトとして採択されている。

このプロジェクトの中で、英語力向上プログラムの開発(教育補助員配置による英語力強化、英語表記の教材開発、専門教員の英語外地研修等)、機関係・航海

系及び共通教科教材の開発、教材の電子書籍化の推進などを行い、学習支援に役立てていこうという大きな取組をスタートした。

- 企業技術者等活用プログラムを高専機構へ予算申請して、平成20年度より第一線で活躍している企業の技術者の方を活用して、高専教育に役立てている。
- 高専1年生の教育は、中学校の接続点で非常に大切な時期であり、初年次教育支援室に副支援室長1名を組織の強化として配置し、初年次教育に当たっている。
- ティーチングアシスタントに関しては、専攻科生が本科生に対して補習あるいは実験等でアシスタントをする科目「教育技術演習」を新設した。
- 資格試験に関しても、学年に応じたレベルの資格試験に合格すれば、それぞれ1単位もしくは2単位を認める新しいカリキュラムが学年進行中であり、これに伴い1、2年生のほとんどが何らかの資格を取得して単位を認定されている状況である。
- 情報工学科の取組として、能率手帳スコラを活用して、学生が自らの力で生活を設計、実践し、それがどれくらいできたかを教員が確認して、学生支援等に役立てる学生指導を始めた。
- それらの取組の集大成として、卒業研究を各学科で行っており、発表会も実施している。卒業研究は、教員とのマンツーマンの指導であり、論文も作成するので、個別指導の集大成となっている。
- 学習支援をするに当たり、教員の資質の向上が必須になっている。そのため、FD委員会を中心に活動している。高専の教員研修会だけでなく、四国地区大学教職員の能力開発組織なども活用している。
- 保護者による授業参観も毎年実施している。
- 教員が自分の教育研究活動等を記録し、自己を見つめて改善していくティーチング・ポートフォリオに力を入れており、研修にも多くの教員が参加し、教員の資質向上を図っている。

b キャリア支援について

- 本年4月より、専攻科生の経験や能力を活用するため、専攻科生に本科1年生の数学と英語の補習授業のアシスタント役として参画してもらうことにした。

専攻科生は、就職においては、大学生との競争に勝ち抜くこと、学士を取得するためには、学位授与機構小論文試験に合格しなければならないなどのハードルを越えなければならず、本科の卒業生よりも勉学や就職に対して高い目的意識を持たせる必要もあった。

1年生に対する補習授業、主に基礎科目の数学と英語の授業に入ってもらったが、教員1人の時よりも学生が真剣に聞き、授業に取り組む姿勢に大幅な改善が見られた。

- 1年生を対象に、5年先の自分の在り方や目的意識を持たせることを目的として、既に進路が決定している専攻科生に、進路の一つとして専攻科の紹介を兼ねて「学生生活を振り返って（後輩達へのアドバイス）」を演題とした講演会を実施予定である。

- 専攻科のカリキュラムに新たに「教育技術演習」を追加した。これは、本科低学年の補習、実験、公開講座などのアシスタントとして指導する経験を積むことにより、自身の総合的な学習経験を活かした教育技術、コミュニケーション能力、並びに企画を円滑に遂行する能力の向上を図ることを目的に単位化した演習科目である。

参加した学生からは、どのように教えたらいいのか、教えられる立場から教える立場に立ったときにどうあるべきかなどについて考えるなどの感想があり、良い方向性に進んでいる。

- 卒業生が就職している新中央工業（株）より講師を招き、「働くことの意義」について講演していただいた。講演では、高専生のメリット、働くことの意義、英語の必要性についてお話いただいた。

- 専攻科生のTAの活動で効果がみられているので、今後ともTAの活動を図りながら、キャリア支援の充実を行っていきたい。

c 寮生活の支援について

- 寮生同士の交流、特に上級生と下級生、上下の交流をなるべく制限していたが、

今年は若干、上級生、下級生の交流を増やすような取組として、新入生のオリエンテーションに積極的に上級生を参加させて、4年生が1年生にいろいろなセッションするような場を設けた。

今までは、掃除の指導チェックはすべて当直の教員が行っていたが、この一部を上級生に担当させ、上級生が直接下級生を指導するなどを行った。

- 本年の概算要求で学寮新棟建設の予算要求をしたが、残念ながら予算がとれなかった。次年度以降も引き続き予算要求をしていくこと。また、その間の寮生の生活面をどう確保していくのか、また新しい寮をどういう寮にするのかという事を含め、8月に「学寮新棟建設ワーキンググループ」を発足させ、新棟完成に至るまでの過渡的期間における生活面のアメニティーの確保などについて検討を開始した。
- 寮生数の増加は、教員の業務負担の増加が危惧されることから、業務の負担軽減の一環として、今年度7月からこれまで教員が行っていた土曜日の日直業務を廃止し、事務補佐員にお願いした。この実施に伴い、かなりの業務負担軽減になっている。

(3) 本校の対応への意見

- 大学間連携共同教育推進事業ということで、かなりの多額の予算が付いたと言うことですが、これについて詳細説明して頂きたい。

教務主事から、商船学科は高専の中でも非常にユニークな存在であり、大事な教育機関となっている。既に平成20年度から、5商船高専の連携事業は始まっており、現代GPに採択されて教材開発等々を行っている。それに引き続き、平成22年度、23年度には、瀬戸内3商船高専の大島、広島、弓削の3校で高等専門学校改革推進経費に採択され、これも海事教育に関するプロジェクトを実施している。これらの実績を踏まえ、今年度大学間連携共同教育推進事業へ5商船高専で申請したところであり、5校でそれぞれ教材開発の部分や、英語力向上のためのプログラム開発とか、また新しい海事技術者の育成システム、練習船の問題も含め、5校で分担して作業を進めているところであるとの説明があった。

- 学習支援と教員の資質向上のところで「アカデミック/ティーチング・ポートフォリオ」があった。ポートフォリオは、本当に子供たちの学習にも生かせるし、

自分の日々の努力とか積み上げとか、そのような学習内容、研究内容を集めたものであり、このようなことをやっていくことは、学生にしても教員にしても非常に、自分を見つめることで素晴らしいことだと思う。

ただ、日々の自分の学習活動、研究活動においても、日常的にやっていることであるものを形にして一つのフォーマットが決まった中に入れ込むことは、逆に教員には、窮屈感が出るのではないかと危惧される。そのあたりを教えてください。

教務主事から、「ティーチング・ポートフォリオ」については、まだまだ、高専の中では進んではいない。今、ご指摘があったとおり、あまり無理強いすると逆効果になりかねないと思っている。現在、高専の中で進んでいるのが阿南高専で、非常に先駆的な取組をされており、全教員の6～7割が経験しているとのことであるが、したくないという教員もいる。「ティーチングポートフォリオ・ワークショップ」に参加した教員からは、非常に有効であったとの意見であり、今後も継続して進めていきたいと思っているとの発言があった。

- ・ 寮の部屋不足の対策について、遊休状態の高齢者施設を使うとか、仮設寮を建てるとか、このように急な部屋不足が起こってくる現状について詳しくお聞きしたい。昨年、学寮を見学し、非常に立派な寮で学生も気持ちよく過ごしているのに、入寮希望者が全員入れないとなると、問題になるような感じがする。

寮務主事から、昨年までは、1年生の入寮者の割合が、ほぼ70%くらいだったが、今年の1年生は85%が入寮した。今は希望者全員を入れており、85%という数字が今年だけの一過性のものなのか、来年度以降も続いていくのか判断をし兼ねるところである。この85%が来年度以降も続くと2年後には50名近くが部屋不足となり、3年後には100名の部屋不足が予想されるという事で、早急な対応が必要になっているということである。今年の1年生入寮率の驚異的な伸びで早急に対応しなければならない事態に追い込まれたということであるとの説明があった。

- ・ 入学生を広範囲から募集する率が高くなればなるほど、入寮生が増えるのではないと思うが、本年度の入学生について、今までと比べての通学状況の変化はあるのか説明を頂きたい。

寮務主事から、出身県だけをみると広島県と愛媛県でほぼ8割を占めており、全体的な流れはあまり変わっていないとの報告があった。

校長から、今まで定員割れしていたことの影響もあり、今後は、定員確保を最

大のテーマとして取り組んでいくので、当然、入寮者は自然に増えていくことになると思われる。

また、企業の方から、最近はコミュニケーション能力が非常に薄れていると言われており、寮の生活において横・縦との繋がりなど、上手くコミュニケーションを図れるような人材が育成できるということで、寮の教育を活用していきたい。入寮したいという希望者は全員が入れるように、本校としても学寮新棟建設に向けて訴えていくとの発言があった。

- ・ 委員長から、提言事項に対して学校の対応状況を報告して頂いたが、いろいろな取組をされており感心している。本日、各委員から助言もありましたので、今後の参考として頂きたい。学生の支援については、指導の最終点はなく大変ご苦労だと思われませんが、引き続き努力をお願いしたいとの要望があった。

1-2 第9回運営諮問会議（平成24年度）諮問事項と提言

（1）第9回運営諮問会議（平成24年度）諮問事項

第9回運営諮問会議において、諮問された事項は以下のとおりである。

ア 高専間の連携について

（ア）現状

- a 平成16年度に独立行政法人国立高等専門学校機構（以下高専機構）が設置され、全国の国立高専を統括する組織となり、近年の特徴として、スケールメリットを生かして多様な高専間連携が展開・強化されるようになり、単独校では困難であった事業や事項について、予算・施設・人材の面から新たな取組を実施できるようになった。高専機構としても組織同士の連携を重視しており、本校では四国地区高専との連携を始め、全国商船系高専や枠を超えた全国高専との連携を推進している。
- b 四国地区高専の連携として、平成16年度から本校が中心になり「四国地区高専との連携・交流事業に伴う特別講義」を継続実施しており、9年目になる。この事業は、本校を会場とした四国地区高専学生参加型集中講義形式で、年度ごとにテーマを決めて、四国地区各高専から関連分野の教員に講師を務めて頂き、練習船弓削丸を活用したユニークな事業となっている。

平成24年度は、4日間に渡って実施し、本校の宿泊所での共同生活をしながら協力してレポート作成を行うなど学校や学科の枠を超えた学習の機会にもなっ

ている。

また、講義以外に練習船「弓削丸」における実習もあり、参加した学生からも楽しかった、もっと長く乗りたかったなどのアンケート結果を貰っている。

- c 産学官の連携については、全国の高専において、地域との連携を図るためのセンターが設置されている。四国地区高専間では各校のセンターが連携して四国地区高専地域イノベーションセンターを組織し、文部科学省から産学官連携コーディネーターを配置して、機能強化を図っている。

具体的な活動としては、四国地区5高専連携シーズ発表会の開催や四国地区高専教員シーズ集・知財シート集の発行など成果を上げている。

- d 各高専には、学生相談室を設置しており、専門のカウンセラーにも来ていただき、様々な問題を抱えている学生の相談に当たっている。平成24年度から四国地区高専学生相談室連絡協議会を立ち上げ、学生相談にかかわる教職員・看護師を含めた研修の場を設け、経験を活かした意見交換や情報の共有により多種多様な事例への対応に役立てることとしている。

- e 商船高専間の連携としては、平成18～20年度に大学改革推進等補助金（現代GP）現代的教育ニーズ取組支援プログラム「海事技術者のキャリア育成プログラムー強い職業意識と高い集中職業能力を備えた海事技術者の育成ー」を実施し、全国5商船高専が（一社）全日本船舶職員協会とも連携して、高専の商船学科の海事教育へのキャリア教育導入を試みた教育改善として「船しごと、海しごと」の出版、DVD付テキスト「はじめての船上英会話」を作成した。本プログラムは非常に有用であり、平成21年度以降も各校で経費負担し継続中である。

- f 平成22年度及び23年度事業として高専機構の高専改革推進経費で採択された瀬戸内3商船高専連携プロジェクト「海運界との共同教育による海事教育推進プログラム」では、海事社会ニーズに沿った共同教育の実践に向けてコアカリキュラムの検討及び海事産業のニーズ調査を行った。

- g 平成23年度から24年度にかけて上記事業を引き継いだ全国5商船高専連携プロジェクトとして「ALL SHOUSEN 学び改善プロジェクト」を実施中である。このプログラムでは、教材開発や国際交流の連携なども推進している。

h 更に、平成24年度から5商船高専連携による5カ年間計画の大型プロジェクトとして、文部科学省の大学間連携共同教育推進事業に「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」が採択され、5校と海事関連団体である（一社）日本船主協会、（一社）全日本船舶職員協会、全日本海員組合及び国際船員労務協会と連携しながら、グローバル化に対応し、海運界が求めている時代に適応できる柔軟で高度な海事技術者の育成を図っていこうとしている。

i 全国高専との連携としては、平成24年度及び25年度の高専改革推進事業として、鈴鹿高専を中心に本校、仙台高専、鶴岡高専、東京高専、福井高専、長野高専、岐阜高専、沼津高専、鳥羽商船高専、舞鶴高専、沖縄高専の連携による「高専ブランド小中学生向け理科・技術教材の開発と市販一教材開発コンテストによる作品収集一」と東京高専を中心に本校、仙台高専、長岡高専、富山高専、長野高専、松江高専、大分高専の連携による「集え、若きエンジニア（Techie Hub プロジェクト）一留学生と日本人学生が共に学ぶALL English サマースクール」の2つのプロジェクトをスタートさせている。前者は情報発信戦略事業として、後者は国際性の向上事業として採択され、現在、各連携校で計画を進めている。

j 志願者確保のための広報活動の連携事業として、本校、広島商船高専、松江高専、宇部高専、都城高専の5校連携による「高専ブランド定着広報プロジェクト一女性志願者増に焦点を合わせて一」を実施し、PR用のDVDを作成した。特に女子の志願者に焦点を合わせ、興味が沸くようなDVDにしている。

また、（一社）日本船主協会が主催で高専機構及び5商船高専が共催となり、神戸、横浜、広島で5校合同進学ガイダンスを実施し、連携して志願者確保の活動をしている。

k 入試連携として、瀬戸内3商船高専の複数校志望受検制度（2高専併願制度）及び最寄地受検制度（受験会場の共有）を平成22年度から実施している。

複数校志望受検制度は、瀬戸内3商船高専の商船学科の併願を認めるという画期的な制度で、全国の高専でこの併願制度が実施できているのは3商船高専だけであり、志願者数の増加と受検機会・選択肢を広げることに繋がっている。

また、最寄地受検志願者も大都市圏での試験会場設置により、今後、志願者が増加することが期待できる。

l 高専間による教材開発としては、12高専が連携した高専ITコンソーシアムにおいて開発したe-learningの教材コンテンツ、四国地区5高専の化学教員が連携して作成した化学演習テキスト、5商船高専連携「ALL SHOUSEN 学び改善プロジェクト」において作成したワークブック等などがあり、高専独自の教材開発を進めている

m 高専間教員人事交流については、各高専の活性化や教員の資質の向上を目的に高専機構が中心になって進めてきているが、教員同士の専門分野のマッチングや希望者の選出などの問題があり、実績は少ないのが実情である。本校は、離島というハンディを抱えながらも、平成18年度、21年度及び24年度と実施し、来年度の人事交流予定も決まっている。

同じ高専でも、学校によって違いがありライバル関係にもあるが、その壁を乗り越えて連携することにより、お互いの学校の活性化や発展を目指したいと思っている。

(イ) 今後の課題

現状を分析したとおり、本校は各種の高専間連携事業を推進してきている。四国地区高専間の連携、商船系高専間の連携、地区の枠を超えた高専間の連携など多様な連携を今後とも模索する必要がある。すでに全国の多くの高専間で連絡を取り合いながら、高専機構の改革推進経費や文部科学省の大学間連携共同教育推進事業などでの外部資金獲得の実績を積んでいる。

高専教員の業務が多忙化する状況ではあるが、単独校では困難な特化した事業及び広域的な活動が必要な事業について高専間の連携を強化し、本校の発展を図ることや入試や広報の連携を更に進めて高専のプレゼンス（社会的な認知度）を高めることが課題になっている。

(ウ) 諮問事項

高専間の連携のように組織同士の連携について、留意すべき点や参考となる事例等についてご教示願いたい。

イ 学校の管理運営について

(ア) 現状

a 本校は、校長のリーダーシップの下に、教務主事・学生主事・寮務主事・広報主事を副校長として配置し、組織ごとに学科長・専攻科長及び各センター長など

を配置して、迅速な意思決定ができる態勢をとっている。

事務組織においても、事務部長をトップとし、2課2室体制でやっている。また、事務組織及び事務分掌規則により、各課の役割が明確にされ業務を遂行している。

- b 本校の意志決定機関は、運営委員会であり、校長を委員長に、各主事、各学科長、専攻科長等の主だったメンバーで組織され、学則や規則、予算、管理運営等、学校の重要事項を審議することとしている。進級や卒業、入学試験などの判定は、教員全員参加の教員会議で行っている。

また、各種委員会は、委員会規則が定められており、必要に応じて整理統合を行うなど、その役割の明確化、効率化を図っている。

- c 自己点検評価に関しては、学校教育法で大学及び高等専門学校等は自己点検を行い、評価することになっており、本校は平成4年度に自己点検評価委員会を発足させて以来、教育研究、管理運営等の学校活動について毎年項目を定めて、自己点検・評価報告書を作成し公表している。

さらに、高専機構になった平成16年度から、高専機構の中期計画に沿った本校独自の中期計画を策定し、同年11月には中期計画推進室を設置して、評価結果を踏まえた年度計画を策定し、年度計画の実施に向けて推進している。中期計画の期間は5年で終了し、現在第2期の期間中で来年度が終了予定であり、5年間のとりまとめを行う予定である。

- d 外部評価については、平成16年4月に運営諮問会議規則を制定し、同年から毎年運営諮問会議を開催している。諮問事項に対して受けた提言内容は、運営委員会において報告された後、HPでその内容を公表するとともに、自己点検評価委員会や各種委員会、学科等にフィードバックし、対応について検討し、改善に取り組むPDCAシステムを構築している。ただ、限られた教職員であるために、実態として評価する側と改善する側が重複している現状である。

- e 学校教育法に定められている第三者評価としては、大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価があり、7年に1度受審する必要がある。平成18年度に第1回目を受審し、第2回目を平成25年度に受審することで、現在、認証評価WGを設置して、自己評価書を作成するなどの準備を進めている。評価は、審査員による書面調査と訪問調査により行われる。

f 危機管理については、平成23年4月に高専機構から各高専におけるリスク管理に関する組織等の整備についての連絡があり、本校においても危機管理規則を制定し、危機管理マニュアルを作成した。本校では、危機事象をA・B・Cの3段階に分けて対応することにした。危機管理規則に基づきリスク管理室会議において、今後の課題等について検討を進めている。

また、上島町と連携して様々な訓練内容を取り入れた防災教育セミナーを実施し、学生及び教職員の防災意識の向上を図っている。

g コンプライアンスに関しては、平成24年3月に高専機構が作成した「コンプライアンス・マニュアルー教職員の行動指針ー」を全教職員に配布し周知している。

また、本年度からコンプライアンスに対応して、各教職員がセルフチェックシート毎にセルフチェックを行う体制を取っている。

h 外部の教育資源の活用については、常勤教員だけでは不足する部分を非常勤講師に依頼したり、企業技術者活用プログラムで企業の方々による技術指導や講義などを通して多様なカリキュラムに対応している。キャリア支援として、卒業生や外部講師による生の声を聞かせるなど、社会のニーズ把握及び学生の意識改革の一環として講演会なども実施している。

i 学生支援関係では、メンタルヘルスを中心に講演会を実施している。学生対象だけでなく、教職員自体がメンタルヘルスについての認識や理解を深める必要があり、毎年実施している。

j クラブ活動の指導支援のため外部コーチを導入し、技術力の向上、課外活動の活性化及び教員の業務軽減を図っている。

(イ) 今後の課題

高等専門学校機関別認証評価の基準11「管理運営」の観点の中で、学校の管理運営体制が整備され機能していることが必要であるとされている。また、外部有識者等の意見反映及び第三者評価受審が義務付けられている。本校は、これまで運営諮問会議の提言や認証評価受審により管理運営についての改善を図ってきた。

来年度の認証評価受審及び第2期中期計画のまとめ、 Semester制導入、PDCAシステムの更なる強化、リスク管理について適切な対応とコンプライアンスの徹底、外部の教育資源の活用としてのコーディネーターの配置、規則の改廃を含む適切な運用など弛まぬ改善が課題である。

(ウ) 諮問事項

高専の管理運営について、参考となる事例やご意見などご教示願いたい。

(2) 審議内容

[第9回運営諮問会議諮問事項について]

- ・ 事例にもあるように組織間、高専同士の連携など素晴らしいことであり、補完するという意味においても素晴らしい取組をされていると思う。ただ、何事においても渦盛らないように、なるべくリーダーシップをとり、しっかりとした連携の中にも弓削商船高等専門学校の伝統と理論を曲げないというつもりでやってもらいたい。そうしないと手を組むということはいいことですが、気がついたら埋もれてしまって、どこにでもあるような学校になってしまうというような可能性もあるので、これを踏まえた上でその辺で連携をしっかりとられたらいいと思う。
- ・ 連携することは大事なことであるが、ハードもさることながらソフトの事業においても、全国の高専の中で弓削商船高専にしかない事業がここにあるというような特徴のある取り組み方をする方がいいのではないかと思う。当然、連携があつて、その上になおかつキラッと光るものが例えば、建物であつたり、船であつたり、また学校の先生であつたり、そういうようなことの特徴のある作り込み方が必要ではないかと思う。文部科学省の予算もどんどん減っている中で、5商船高専が同じ様な手の上げ方をしていっても意味がない。5商船高専の中でもこの事業だけは、弓削商船高専でやっていくという特徴だった事を今後は取り組まなくてはならないのではないかと思う。
- ・ キャリア教育支援による就職講演会について、対象者が5年生、4年生ばかりになっている。入学した時から「私はA会社に就職したい」とか、A会社に就職するためにはどういう授業を受け、どういうことをマスターすればいいのか、入学当時にそういう意識を持って勉強することがいいと思う。逆に4年生、5年生になってこのような授業を受けても間に合わないこともあるのではないかと思う。
だから、企業側としてはどのような人材を求めているかということをして1年生の

段階で知り、A会社に行きたいとかこんな仕事がしたいという就職観を先に植えつけて、それで後で授業として作りこみをしていく。ここは教育機関であるということは分かるが、早い時期にそういう就職観を持たせて、その企業に行くためには何をすべきかということをお教えるべきではないかと思う。

- ・ 高専間というのは連携事業が沢山あり、これはこれで大変だと思う。ただ、私共の場合は単独の県立の一大学であり、周りから要求されるのはどこが大学のユニークなところか、他とどう違うのかということなので、ある意味、高専が羨ましいとも思う。弓削商船高専の伝統の中で積み上げられてきた教育の伝統やユニークな取り組みなどを連携の中にさらに活かしていただきたい。

- ・ 連携事業の中に現行のカリキュラムを早急に反映していかないといけないような事業もある。カリキュラムを定めると最低でもワンクールで評価しつつ終わり、評価によりさらに変えていくというのが普通のやり方だと思うが、今回の専攻科TAの単位化については、その対応のために直ぐに単位を認めたりしているが、そういうことでしょうか？

教務主事から、専攻科の設置後5年間はカリキュラムの変更は出来ないが、5年以上経過し、大学評価・学位授与機構の専攻科における教育の再審査受審という時期で、この機会に専攻科のインターンシップ、これも短期、長期のインターンシップの単位化を行った。ただ、ご指摘のように、例えば本科だと卒業するまでに5年間かかるので、小幅な変更は高専機構も認めているが、大幅な変更を頻繁にすることはできない。商船教育についても、現在進めているプロジェクトを完結したら、教育課程の改正も必要になると思っているとの発言があった。

- ・ 今回始まった5商船高専のプロジェクトは、本当にカリキュラムとも密接に関係してくると思うので、いいプロジェクトの完結を期待している。

- ・ 現在私が勤めている会社は船会社であり、船会社は世界にも沢山あるし、日本にも大手3社といわれるような立派な会社がある。我々の会社は、田舎で海運会社を設立してやっている会社で、ネームバリューも無いし世界的にもあまり知られていない会社ではあるが、ただ他の会社とは違ったポリシーをもった会社であるということをいつも誇りに思っている。

それは三つのポリシーで、第1番目に、船は絶対に錆びさせてはならない、2番目に安全運行、3番目は、クイック&クローズコミュニケーションという、非

常にシンプルな会社のカンパニースピリットを掲げている。これを会社の乗組員全員に周知すると共に各管理会社、チャーターにも、このような違った事をやっているということをアピールし、この会社の船だったら安心して使えると思って頂けるような実績を残して社会的に認めてもらっている。このような目標を掲げている船会社は世界中探しても外にはなく、非常にユニークな会社であるということで船会社からは認められ、事業を継続していけるのが実情である。高専は全国に51校あるけれど、やはり、弓削商船高専は他の高専とここが違うんだということをきちんと掲げて、学校運営をやっていくということが非常に重要なことではないかと思う。

- ・ 連携した事業や資源獲得をする一方で、弓削商船高専ならではの地の利を活かした事例として、外部学習支援の活用で今治市と連携協定を結んでいる。その協定の一環で、今治市が事務局となっている今治市外航海運協議会の協力で、年に1度、協議会のメンバー会社の方が、学校で今治市の外航海運についてのセミナーを開催している。外航海運協議会発足当時から、今年で7回目になる。なお、先ほど意見をいただいたところですが、今治市外航海運セミナーも対象が4年生だけなので、1年生、2年生と低学年から聞かせておくべきかと反省はしている。

- ・ 本日説明した連携事業には、弓削商船高専が中心となっている事業は少ない。もっといろいろな事業で弓削商船高専が中心となって、外の学校を巻き込んだ事業という形を目指す必要がある。

今年度、情報工学科が「全国高専プログラミングコンテスト」で、優勝にあたる文部科学大臣賞を受賞した。ただ、それをもっとアピールして、日本一の情報工学科教育というように、連携事業の中においても、もっと弓削商船高専の存在価値を示す必要がある。

商船学科の練習船の実習についても、5商船高専でみる中でも非常に丁寧な実習が行われていると思う。それで国家試験の受験合格率もかなりのレベルに位置している。

しかし、残念ながら、ご指摘があったように、連携ばかりを意識して特色が埋もれてしまうということにならないよう、今後とも何とか本校が中心になって事業を展開していきたいと考えている。

- ・ 地域との連携では、上島町や今治市の事業にいろいろな形で参加していくような社会との接点をいかにつくるかということが必要である。2014年に広島県

と愛媛県が中心になり、瀬戸内しまなみ博覧会が実施されるが、その際に船を提供するなど弓削商船高専をアピールする仕組みもあるのではないかと。

今年の新聞で弓削商船高専と上島町が学生実習を活用してコースターを共同製作したとの記事を拝見した。このように学校行事などを報道機関に情報提供してマスコミに取材してもらい、この弓削商船高専ではこのようなことをしているということをもっとアピールし、それを中学生や保護者が見て、この学校に入学したいとか子供を入学させたいという気持ちになるような仕組みをつくるのも一つではないかと思う。

いろいろな形で社会に露出させることによって、入学の動機に結びつくことが可能になるのではないかと思うので、道のりは長いでしょうが、そういう取組も是非、この行事が弓削商船高専であるということをマスコミを通して、精一杯PRすることを心がけていただきたい。

- 学校の取り組みなどを説明いただき、素晴らしい管理、組織が出来ていると思っている。公立学校の場合を例にとってみると、どの学校も大体、校長以下はほとんど横並びという鍋蓋式の組織である。そのような組織の方が意外と一人一人が動けるし、自由度が高くなって全員の動くエネルギーで物凄い力が出ることもある。ピラミッド式になっていると、意外と管理ということだけが働き、「上から言ってくるから仕方が無いのでやるか」くらいのことになってしまう傾向になり、連携についても同様だと思うが、できるところは鍋蓋式で行くというような方が何にしても上手く、クリエイティブな仕事出来るような気がする。
- 弓削商船高専としての主導権をとっていくというのは、やはり商船学科を前面に出さないといけないと思う。弓削商船高専のHPはかなり充実しており、カウント数が毎日1000件を越えているところもあるが、機構の連携などのポータルサイトがない。私たちが今、情報化社会にある時に、マスコミの活用も非常に大事ではあるが、ネット社会では今治市のゆるキャラ「バリィさん」のように一つ火が付いたら、とにかく皆がそっち向いていくというようになるので、このような上手いツールを使っていくことはとても大事という気がしている。この点を踏まえて、よりHPの改善等もやっていけばいいと思っている。また、最近、ほとんどの人がスマートフォンを持っており、ちょっとしたアプリとして、商船アプリのようなものもありかなとも思う。
- 全体では、いうことはないのですが、後は実行をお願いするばかりである。危機管

理、リスク管理については、学校、企業、各種団体において各リスクに対応したマニュアルなど膨大な資料をそれぞれ皆が持っている。ただ、その資料により勉強しているかと言ったら、なかなか出来ない点がある。何かあれば逆に何をしていたんだと、行政やマスコミから叩かれるというのが、今の現状である。

我々は、月に1回10分だけでも全体での勉強会をやれば、全体の意識向上により少しでも前進するのではないかと思って実施している。皆がどんな問題意識を持ってやるか、そのあたりを月に1回でも2ヶ月に1回でもそういった勉強会をやるのも一つの方法ではないかと思う。

- ・ 就職するということを前提に授業や行事を構成されていると思うが、起業、一人が業を起こすことも視点にいれて、特にソフト系の事業では、そういう志を持った方が多いのではないかと思う。難しいと思うが、どこに就職するという形ではなく、事業を起こすということの職業教育というか、自分が起業するという志を持つようなカリキュラムとしてちょっとした築きの授業も構成していけば、企業等に就職しなくても自分はこういう形で生きるんだという、生きる力の学習も備わり、現代社会に必要なではないかと思う。

特に今、日本はどんどん業者数が減っているなので、特に生きる力を備えた若い人が志を持つような、考え方、見方が出来るような人材をつくっていただきたい。

- ・ 女子の学生を集めるのが高専全体の課題だと言われたが、今この会場を見回しても、女性の管理職が一人もいない。商船系の分野は仕方ないのかも知れないが、情報系の分野などは非常に女性の進出が進んでおり、男性と対等に出来る分野だと思われる。

最近の若い人たちは、見た目に格好いいところへ集まるという傾向にあり、女性の先生が生き生きと仕事をしているようなところが前面に出ると、いいなというように憧れて入ってくる女子学生が増えていくのではないか、今の学生は実際そのような傾向が強いと思う。もう少し学校として配慮していただけるよう希望する。

- ・ 校長から、高専機構としても男女共同参画を展開している。本校でも、女性の教員の比率は8%程度であるが、高専機構としては、当面10%、将来的には20%を目指すとのテーマ設定をしている。また、管理部門、学校で言えば教授クラスへの展開が非常に少ないと校長、事務部長会議でも、指摘されている。このようなことも常に念頭に置きながら、女性の問題も考えていくつもりであると

の発言があった。

- 子供達のメンタルヘルスという問題で、これは小中学校でも、発達障害の子供達が6%いるというところで、必ず学級の何人かは、この子はどういうような感じの子がいる。やはり学校としても、それなりの特別な配慮をしていかななくてはならないと思う。そんな中で初年度入学生に対して、そういう事も把握した上で、継続した指導をして行く必要があるという気がしている。今の日本、世界を動かしているのは、アスペルガーの方々だと言われているが、子供達のいいところを伸ばすという意味では、何も障害があるからという問題ではなく、その子の良さを見つけて伸ばしてあげるといったスタンスをとっていただければと思っている。
- 危機管理については、しっかりしたものが作られているようである。上島町においてもBCPを四国で一番最初に作ったが、機能しているかという点と疑問がある。そういう事例が起きないと機能するかどうか分からない。お互いに弱いところを突つき合い、指摘しながら補完できるのではないかと思う。
- 瀬戸内しまなみ博覧会に関して、来年から2年間上島町の職員1名を県に派遣する。県で何かをするのではなく、上島町で何か出来ることをしてくださいと言われている。そうすると、やはり上島町は弓削商船高専があるので、弓削商船高専を前に出すべきだと思っており、島博が2年後に始まる際には、商船の絡んだ大きなイベント、例えば商船祭を膨らますとか、おそらく東南アジアを始め全世界が注目すると思うので、この機会に弓削商船高専の宣伝も兼ねてご協力をいただきたい。

(3) 提言

ア 高専間の連携について

商船系高専や四国地区高専及び地域の枠を超えた他高専と幅広く連携されていることは、積極的に実績も積まれており評価できます。今後とも、高専間や地域及び各機関等と連携していくことは非常に重要ですが、弓削商船高専の特色を生かし、社会にアピールできるような取組を展開することを提案します。

イ 学校の管理運営について

高専として学校管理運営が行われ、組織が構築されていると思います。今後の管理運営について、人材育成の観点からの組織改革、危機管理に対する意識向上、

女性教職員の拡充・活用等、全体で取組を進めるように更なる学校の管理運営を目指すことを提案します。

2. 平成24年度中期計画と実施状況

平成24年度の中期計画と実施状況を資料1に示す。

本校の平成24年度計画として、高専機構の平成24年度計画の変更に対応して、「最寄地受検制度及び複数校志望受検制度を充実する」こと、「FD委員会において、SPOD講演会や授業参観などの教員の資質向上を目的とした事業を計画し、実施する」こと、「寮生数の増加への対応について、寄宿舍の整備及び拡充を検討・推進する」こと、「コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する」こと等を追加した。

平成24年度に新たに取組んだ主な事項は、以下のとおりである。

- (1) 広報活動の強化として、新居浜高専と連携し、松山市と大洲市にサテライトオフィスを新設した（資料2）。
- (2) 瀬戸内3商船高専による複数校志望受検制度及び最寄地受検制度による学力選抜入試について、入試制度を統一して検査室を共有する形で実施した。また、新たに岡山会場を新設し、津山高専、広島商船高専と連携して、最寄地受検制度を実施した（資料3）。
- (3) 平成25年度入試から、入学生の学力水準維持のため、学力検査科目を3科目（英・数・国）から5科目（英・数・国・理・社）へ変更し、配点を傾斜配分した。
- (4) 専攻科の新しい教育課程を今年度の入学生から適用した（資料4）。
- (5) FD委員会を中心に、ティーチング・ポートフォリオの充実（7月に本校ワークショップを開催等）、PDCA型研究授業の実施、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）によるFD講演会実施などFD活動について進展させた。
- (6) 男女共同参画推進のため、女性常勤教員4名の他、女性非常勤講師を6名採用した。

- (7) 商船系5高専による「ALL SHOUSEN学び改善プロジェクト」の活動を取りまとめ、大学間連携共同教育推進事業「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」に発展させ、海事教育フォーラムを連携開催した(資料5)。
- (8) 平成25年度に受審する大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価に向けて、認証評価WGを中心に自己評価書を完成した。
- (9) 国際交流の実質化を図るため、ナコンパノム大学から教員・学生5名が来校し、本校からも教員・学生10名をタイへ派遣し学術・国際交流を行った。また、ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジに教員・学生4名が訪問し海外インターンシップ及び国際交流を実施した(資料6)。
- (10) 校長裁量経費の一部を研究費として配分することとし、各教員の研究等の実績や役割に応じたポイント制とし、ポイントに応じた傾斜配分とした。
- (11) 全教職員に対してコンプライアンスのセルフチェックシートを配付し、セルフチェックを実施した。
- (12) 技術の進展に対応した教育環境整備の実態調査を行い、操船シミュレータ装置、荒天航泊実験装置、練習船「弓削丸」船内LANシステム他、電子機械工学科1件、実習工場1件の設備の更新及び新規整備について喫緊の課題であると分析し、補正予算での要求に挙げ、予算配分を受けて、整備を進めた。

今後、高専機構の平成25年度年度計画の変更への対応及び継続検討課題を精査して、本校の平成25年度年度計画を立案していく予定である。

3. 入試制度改革及び成果と課題

本校は、この数年間にわたり新入生の定員確保のため様々な入試改革を行ってきた。平成23年度入試から導入した瀬戸内3商船高専の連携による複数校志望受検制度及び最寄地受検制度の実施に伴い学生募集要項の調査書内容を改訂し、学習の記録を5教科から9教科に変更し、観点別学習状況の記載欄も設けてより詳細な評価を行うことに改善した(資料7)。平成25年度入試から学力検査について、3科

目から5科目に変更し面接は実施しないことになったが、配点を傾斜配分するなどの改善を行い、入学生の学力水準維持・向上に向けて取り組んでいる(資料8、9)。さらに、志願者のエリア拡大を目指し、津山高専、広島商船高専と連携して岡山会場での最寄地受検制度を今年度から始めた(資料10)。

商船学科の複数校志望受検制度は、3年間の実績を積み、想定以上の成果を上げている(資料11)。複数校志望受検志願者は、平成23年度入試で43名、平成24年度入試で46名、平成25年度入試で68名に上り年々増加している。本校商船学科の志願者も今年度100名を超え過去最高の志願者となっている(資料12)。また、複数校志望受検制度による合格者は、平成23年度入試で21名(入学者19名)、平成24年度入試で27名(入学者26名)、平成25年度入試で22名(入学者22名)となっており、入学率が高く、受検生のニーズに応え得るこの制度の優位性を示している。東京、大阪、広島、福岡の4大都市での最寄地受検志願者も平成23年度入試で79名、平成24年度入試で91名、平成25年度入試で114名と増加の一途を辿っている。

以上のとおり瀬戸内3商船高専の商船学科複数校志望受検制度の実施により、予想以上の志願者の増加に繋がったことから、制度の目的である「受検機会・選択肢を広げる」ことが定着しつつあると考えられる。また、平成25年度入試から入試制度を統一することができたため検査室を共有し、学力検査当日及び採点日に3校間でテレビ会議システムを活用して、連携を取りながら入試対応ができる体制を構築できたことも大きな成果であるといえる。

今後の課題として、複数校志望受検制度実施の目的の一つである入学生の質の向上について各校で検証を進めており、各検査場での検査員の数についての効率化や事務的作業の煩雑さの軽減についても、検討を進めている。

また、工業系学科については、志願者のエリアが競合することもあるが、平成26年度入試から本校の電子機械工学科と広島商船高専の電子制御工学科の間で複数校志望受検制度を始めることを決定しており、高専のプレゼンスの向上を視野に入れて、更なる志願者全体の増加を図ることを目指している。

4. FD活動のまとめと課題

本校は、平成23年度から教育内容検討委員会及び成績評価協議会等を統合した形でFD委員会を設置した(資料13)。これにより、それまで分散していたFD活動を整理・統合して総括的に実施できる体制となった。

年間のFD活動については、立案した計画に沿って展開し、年度ごとにFD実施報告書を作成している(資料14)。平成24年度の主なFD活動は、以下のとおり

である。

教員研修については、高専機構主催の各種研修会及び全国高専教育フォーラムへの参加・発表、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）による研修会・フォーラムへの参加、中国・四国地区工学教育協会高専教育部会教員研究集会での発表などにより推進した（資料15）。特に、ティーチング・ポートフォリオについては、阿南高専の協力を得て本校でワークショップを開催し、本校教員がメンターを務める等組織的に取り組んだ（資料16）。さらに、アカデミックポートフォリオへ取組を拡大している。また、愛媛大学教育企画室から講師を招いて校内でFD講演会を開催し、参加教員アンケート結果から自分に必要な知識やスキルを身に付けることができ改善に繋がるとの回答率が80%に上り、実質的な効果が上がっている（資料17）。

保護者による授業参観を4月28日（土）に実施し、12府県から113名の学生の保護者が参観し、総数は197名の参加者があった。授業参観に関するアンケート結果から、全体的におおむね良好な評価となっており、実施時期についても現行の日程が望ましいと考えられる（資料18）。

学生による授業評価については、質問の文言を一部修正して例年通り実施した（資料19）。今年度は、サーバの不都合によりアンケート結果はファイル共有によって公開を行った。

研究授業については、PDCAが機能する形式として実施した。具体的には、P：学習指導案作成（授業計画及び準備）、D：授業実施、C：Minute Paper（学生の理解度の把握）及び参観教員の点検、A：研究授業総括記録（参観教員との総括）のプロセスを経る形式で授業改善の取組を行った（資料20）。

情報工学科は、社会の要請や学術の発展動向に対応した教育の展開の一つとして、公益財団法人画像情報教育振興（CG-ARTS）認定教育校として登録されており、今年度、合格率部門（団体の部）で優秀賞を受賞し、CGクリエイター、Webデザイナー、CGエンジニア、画像処理エンジニア、マルチメディアに関する科目に関連した内容を反映している（資料21）。

FD活動の今後の課題として、研修会や校内外での活動を発展させ、より多くの教員の意識改革を図り、教育の質の向上や授業改善を図っていくことが必要不可欠になっている。

5. 各種アンケートの分析及び評価と課題

（1）教育方針・教育目標について

本校の教育方針と教育目標は教育方針・教育目標に関する規則として定められて

おり（資料22）、ウェブサイト、学校要覧、学生便覧、シラバス、専攻科学生用引き・シラバスに掲載することで、学校構成員（教職員及び学生）に周知している。

教職員、準学士課程及び専攻科課程の学生に対して目的の周知状況についてアンケート調査を実施した結果（資料23）、掲載場所を知っている者を含めると、ほとんどの教職員（非常勤を含む）へ周知されているが、準学士課程と専攻科課程の学生への周知度は5割前後に留まっている。内容まで十分理解している者は、教職員で7割前後、また、準学士課程と専攻科課程の学生は2割未満である。アンケートの設問形式が大雑把であったことを考慮しても、今後とも周知強化を図っていくことが肝要である。

（2）アドミッションポリシーについて

本校では、各学科及び専攻ごとの教育目的に沿って、準学士課程（編入学を含む）及び専攻科課程へのアドミッションポリシーが明確に定められており、学生募集要項に明記している。将来の学生に理解してもらうため、本校広報主事・主事補、各地域PR担当教員及び学生課等が連携して、中学校への訪問、オープンキャンパス、学校説明会等を実施しており、その際にアドミッションポリシーを記載した学校案内及び学生募集要項を配布して、分かりやすく説明している。また、学校案内等を全国各地に送付し、広く社会に公表している。

本校教職員には、入試業務担当者説明会の実施やウェブサイトに明示することで周知している。教職員に向けて実施したアンケートでは、教職員の63%（掲示場所を知っている教職員は88%）がアドミッションポリシーについて知っていると回答しているが（資料24）、今後、特に新任教職員への周知徹底を図ることが必要である。

（3）シラバス活用について

本校の準学士課程のシラバスは、学科別に定められた教育課程に沿って科目別に作成され、年次ごとに一般科目と専門科目に分類され、まとめられている。

シラバスの作成に当たっては、全教員に作成要領（資料25）を配布し、記載内容の形式を統一しており、学修単位の場合には1単位当たり30時間の自学自習が必要であることを明記している。各講義の最初に授業ガイダンスを設け（シラバスを活用して講義の目的・内容・成績評価などについての説明）、学習目標を掲げ、授業の進め方を示し、各時間の学習項目とその学習到達目標を明記し、成績の評価方法を具体的に示して学生の履修に役立つように配慮している。学修単位の自学自習

の実質化のための対策としては、レポートや自学自習課題の提出を求め、成績評価に反映することとしている。また、商船学科では、第1種船舶職員養成施設に関連する授業科目内容の該当項目及び時間数も明示している。シラバスの記載内容については、各学科のシラバス担当教員によって点検・改善を行なっている。シラバスは、ウェブサイトに掲載され、クラスごとに抜き刷りを作成して、全学生に配布している。

専攻科課程のシラバスは、各専攻の教育課程の編成に沿って学位授与機構の区分に該当する科目としての位置付けを明確にした上で、専攻科長から示された統一様式で担当教員が作成している。

資料26に示したシラバス活用に関するアンケート結果から、教員のシラバスの活用状況については、「よく活用している」、「ある程度活用している」を合わせると約87%の教員が活用しており、「授業の内容を全般的に説明する」または「授業計画の策定と実際の授業の進め方」に活用している教員が80%を超えていることから、概ね活用されていると判断される。しかしながら、準学士課程の学生のシラバス活用状況については、アンケート結果から、「活用している」と回答した学生は25%程度に留まっており、活用度を上げる改善が必要である。専攻科課程の学生へのアンケート結果から、70%以上の学生がシラバスを活用していると回答しており、概ね利用されていると判断されるが、事前学習及び復習等への活用については改善の余地がある。

(4) 学習到達度について

[準学士課程]

各学科の5年生に対して学習達成度評価の調査を行った(資料27)。専門知識の習得の程度を問う項目では、「身についた」、「良く身についた」と回答した学生の割合が商船学科、電子機械工学科、情報工学科で、それぞれ94%、94%、82%であり、大多数の学生は、本校が目指す技術者として必要な知識を習得しているといえる。また、忍耐力、協調性、責任感などの程度を問う項目では、「身についた」「良く身についた」と回答した学生は80%程度と高く、技術者としての倫理観が育成できているといえる。一方、英語会話・読解力の習得や国際感覚に関する項目は、電子機械工学科と情報工学科で低く、商船学科で高い評価となっている。商船学科では、現代GPや企業技術者活用プログラム、大学間連携プロジェクトを活用し、英語による乗船実習や英語キャンプを実施しているためと考えられる。工業系学科については、今後、授業方法の改善等を進めることが課題である。

〔専攻科課程〕

専攻科2年生に対して学習達成度評価の調査を行った(資料28)。専門知識については、海上輸送システム工学専攻、生産システム工学専攻のいずれも「身についた」「良く身についた」が100%となっており、本校が目指す高度な技術者として必要な知識を深く習得しているといえる。また、技能力、忍耐力、協調性、責任感に関する項目も評価が高く倫理観が育成できている。さらに、理解力、表現力に関しても評価が高く、プレゼンテーション能力が育成できている。しかしながら、生産システム工学専攻について、創造力に関して「身についた」と回答した学生の割合は30%と低く、創造性教育に関する改善が必要である。

(5) 卒業(修了)生及び就職先企業からの意見

過去3年間の準学士課程卒業生及び専攻科課程修了者の就職先企業と卒業(修了)生を対象としたアンケート調査を実施した。

企業へは、卒業(修了)生の学力、資質、性向に関する3項目について回答を求めた。学力については、専門知識や実技系分野において優れているが、一般教養知識に劣るとの回答を得た。資質については、実践力や応用力を備えているものの、創造力や表現力に乏しいと評価された。性向については、協調性があり礼儀正しく責任感もあるが、積極性や国際性に乏しいことが指摘された(資料29)。

卒業(修了)生へのアンケートは、在学中に身につけた知識に関すること、就職・進学指導に関すること、課外活動や寮生活に関することについて回答を求めた。身につけた知識は、専門知識と実技系の技能と回答した割合が83%と高い。上述した企業へのアンケート結果による専門知識や実技系分野において優れていると一致していることがわかる。自分の身につけた知識が発揮できているか否かの質問については「どちらとも言えない」の回答を除くと、約7割の者が役立っていると回答しており、実践的技術者養成の観点から、本校の教育目的に適合しているといえる。就職・進学指導、課外活動及び寮生活については、「適当であった」あるいは「活かされている」との評価を得た。また寮の設備についても十分であるとの評価を得た。寮生活で得たものは「友人」「協調性」「忍耐力」であると答えている(資料30)。一方、在学中に力を入れておけば良かった分野は、語学と専門基礎となっており、語学力、創造力、表現力が改善すべき点であることがわかった。これらに関しては、専任及び非常勤の外国人教員を採用して専門英語の教育を行い、準学士課程低学年の英語教育を「総合英語」、「英語表現」、「基礎英語」、「英語購読」に分け、その一部を各クラス3分割した少人数教育としてネイティブの非常勤講師を含めて実施するといった対策等を今後とも強化していくことが課題である。

6. 施設・設備

平成24年度の施設・設備に関する主な工事契約等は、以下のとおりである。

(資料31)

(1) 運営費交付金事業（営繕事業）

・地下タンク改修工事

平成22年2月8日の総務省からの答申「地下貯蔵タンク流出事故防止対策について」を踏まえ、消防法第37条及び危険物の規制に関する規則等の一部の省令が平成23年2月1日に改正され、平成25年1月31日から法が発効されることとなった。

それを受けて、学生寄宿舍日比地区については、浴室の給湯用ボイラーとして使用している地下貯蔵タンクの膜厚を調査の上、長期的に対応できるように内面腐食防止のため内面保護FRPライニング（＝コーティング）を行った。

校舎地区に関しては、実習工場に暖房用ボイラー燃料貯蔵施設としての地下貯蔵タンクがあるが、順次廃止予定のため、簡易対応である液面計測器の取替を行った。

(2) 運営費交付金（学内経費）

・学生寄宿舍ボイラー設置工事

学生寄宿舍の貫流蒸気ボイラーは、以前は2基で交互に運転を行っていたが、経年劣化（設置15年経過）が進んでおり、1基は故障により運用を停止していた。1基のみでの単独運転は、故障により停止すれば寮の機能がたちまち麻痺してしまうため、取替を行うこととした。

既存の貫流蒸気ボイラーは、浴室の給湯用が主な用途ではあるが、学生の全部居室の空調にも暖房用として使われていたため、最大蒸気量1,500kg/h rが必要であった。しかしながら、平成23年度、居室に関してはエアコンによる空調設備に切り替えていることから、ボイラーの運転能力は、格段に小規模なもの（最大蒸気量400kg/h r）で十分となり、現在の状況に合わせたものに取替を行った。

資 料 編

資料 1. 高専機構第 2 期中期計画・平成 2 4 年度年度計画、弓削商船高専 平成 2 4 年度年度計画・年度計画実施状況	2 7
資料 2. サテライトオフィス新設の記事	3 5
資料 3. 国立高等専門学校合同説明資料（岡山県・広島県用）	3 6
資料 4. 専攻科教育課程表	3 7
資料 5. 海事教育フォーラム開催案内	4 1
資料 6. タイ王国「ナコンパノム大学」との国際交流（HP 記事）	4 2
資料 7. 商船学科複数校志望受検制度入学志願者調査書	4 3
資料 8. 平成 2 4 年度第 1 回入学試験委員会議事概要	4 4
資料 9. 学力選抜における配点について	4 6
資料 1 0. 平成 2 5 年度学生募集要項（抜粋）	4 7
資料 1 1. 複数校志望受検制度実施について	4 9
資料 1 2. 入学試験の実施状況（過去 5 年間）	5 2
資料 1 3. 弓削商船高等専門学校 F D 委員会規則	5 3
資料 1 4. 平成 2 4 年度 F D 実施報告（目次）	5 4
資料 1 5. 教員研修歴等一覧	5 8
資料 1 6. アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績	5 9
資料 1 7. 平成 2 4 年度 S P O D 講師派遣プログラムアンケート集計結果	6 2
資料 1 8. 授業参観に関するアンケート結果	6 4
資料 1 9. 学生による授業評価アンケート調査実施について	6 6
資料 2 0. P D C A 型研究授業（電子計算機（2 年）学習指導案）	6 7
資料 2 1. C G - A R T S 協会「優秀校」表彰	7 0
資料 2 2. 弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則	7 1
資料 2 3. 教育方針・教育目標に関するアンケート結果	7 2
資料 2 4. アドミッションポリシー及びアドミッションポリシーに関する アンケート結果	7 5

資料 25. 平成 24 年度シラバス作成要領について	76
資料 26. シラバスの活用に関するアンケート結果	77
資料 27. 学習到達度アンケート集計結果（準学士課程 5 年生対象）	80
資料 28. 学習到達度アンケート集計結果（専攻科 2 年生対象）	83
資料 29. 卒業（修了）生の就職企業先へのアンケート結果	85
資料 30. 卒業（修了）生へのアンケート結果	86
資料 31. 平成 24 年度施設・設備工事	87

	第24年度 年度計画 (平成24年度 年度計画)	平成24年度 年度計画 (平成24年度 年度計画)	平成24年度 年度計画 (平成24年度 年度計画)	対応委員会	担当者	事務担当
15	<p>④ 男女共同参画推進の観点から、男女共同参画推進を踏まえ、女性教員の積極的な登用及び女性教員の働きやすい環境の整備を進める。</p> <p>⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修を企画・開催するとともに、全国専修学校フォーラム等、様々な研修会に参加する。また、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。</p> <p>⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p> <p>⑦ 60名以上の教員を国内外の大学等での研究又は研修への参加を促進する。</p>	<p>④ 女性教員の積極的な登用と女性教員のための環境整備を検討する。</p> <p>⑤ 教員の能力向上を目的とした各種研修を企画・開催するほか、全国専修学校フォーラム等の研修会に参加する。また、地元教育委員会等と連携し、高等学校の教員を対象とする研修等への各高専の参加状況を把握し、派遣を推進する。</p> <p>⑥ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。</p> <p>⑦ 教員の国内外の大学等での研究又は研修への参加を促進する。</p>	<p>④ 女性の非正規職員6名を雇用した。</p> <p>⑤ 外職訓習生3名をFD派遣会を主催した。</p> <p>⑥ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑦ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>人事</p> <p>FD</p>	<p>学科長・G科長</p> <p>4主事</p>	<p>人事係</p> <p>人事係</p>
16	<p>⑧ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑨ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑧ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑨ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑧ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑨ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
17	<p>⑩ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑪ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑩ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑪ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑩ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑪ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
18	<p>⑫ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑬ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑫ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑬ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑫ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑬ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
19	<p>⑭ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑮ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑭ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑮ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑭ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑮ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
20	<p>⑯ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑰ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑯ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑰ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑯ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑰ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
21	<p>⑱ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑲ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑱ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑲ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑱ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>⑲ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
22	<p>⑳ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉑ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑳ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉑ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>⑳ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉑ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
23	<p>㉒ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉓ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉒ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉓ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉒ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉓ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
24	<p>㉔ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉕ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉔ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉕ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉔ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉕ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>
25	<p>㉖ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉗ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉖ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉗ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>㉖ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p> <p>㉗ 専修学校研究員22名の教員が発見された。</p>	<p>FD</p>	<p>4主事</p>	<p>人事係</p>

年度	計画	内容	実施状況	関係委員会	担当者	連絡担当	
26	<p>第2期中期計画 (平成21年3月31日 文部科学大臣承認)</p> <p>③ 技術科学大学を志す理工系大卒の定型的な就職教育の提供、教職の専門性、教職課程の改革、高校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p> <p>④ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門委員会において、メタバースの普及を図り、高等専攻での活用を促進する。</p> <p>⑤ インターネットなどを活用したラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>③ 技術科学大学を志す理工系大卒の定型的な就職教育の提供、教職の専門性、教職課程の改革、高校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p> <p>④ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門委員会において、メタバースの普及を図り、高等専攻での活用を促進する。</p> <p>⑤ インターネットなどを活用したラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>③ 技術科学大学を志す理工系大卒の定型的な就職教育の提供、教職の専門性、教職課程の改革、高校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p> <p>④ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門委員会において、メタバースの普及を図り、高等専攻での活用を促進する。</p> <p>⑤ インターネットなどを活用したラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>③ 技術科学大学を志す理工系大卒の定型的な就職教育の提供、教職の専門性、教職課程の改革、高校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p> <p>④ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門委員会において、メタバースの普及を図り、高等専攻での活用を促進する。</p> <p>⑤ インターネットなどを活用したラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>③ 技術科学大学を志す理工系大卒の定型的な就職教育の提供、教職の専門性、教職課程の改革、高校卒業生の継続教育などについて連携して推進する。</p> <p>④ 教育・FD委員会の下に設置したICT活用教育専門委員会において、メタバースの普及を図り、高等専攻での活用を促進する。</p> <p>⑤ インターネットなどを活用したラーニングの取り組みを充実させる。</p>	<p>情報処理教育センター長 (第二技術部)</p>	<p>教務係</p>
27	<p>⑤ 学生支援、生活支援等 ① 中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の常備生生活を送っている特性を踏まえ、中期目標の期間中に全てのメンタルヘルスを含めた学生支援、生活支援の充実のための講義を実施する。</p>	<p>⑤ 学生支援、生活支援等 ① 各専攻の教員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、「学生支援、生活支援委員会」において、各専攻のニーズや経済的ニーズを踏まえた学生に対する学生支援、生活支援を推進する。</p>	<p>⑤ 学生支援、生活支援等 ① 教員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、必要情報提供及びファイアウォール機能について、運用を開始する。</p>	<p>⑤ 学生支援、生活支援等 ① 教員を対象としたメンタルヘルスに関する講習会を開催するとともに、必要情報提供及びファイアウォール機能について、運用を開始する。</p>	<p>学生相談室長 学生相談室員</p>	<p>情報処理教育センター長 (第二技術部)</p>	<p>技術支援センター (第二技術部)</p>
28	<p>② 図書館の充実や寄附者の取組など計画的な整備を図る。</p>	<p>② 各専攻の図書館及び寄附者の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ、整備を進める。その結果を踏まえ、施設整備を実施する。特に学生数の増加への対応について、寄附者の整備及び拡充を検討・推進する。</p>	<p>② 図書館及び寄附者の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ、整備を進める。その結果を踏まえ、施設整備を実施する。特に学生数の増加への対応について、寄附者の整備及び拡充を検討・推進する。</p>	<p>② 図書館及び寄附者の施設の実態調査とニーズ調査の結果を踏まえ、整備を進める。その結果を踏まえ、施設整備を実施する。特に学生数の増加への対応について、寄附者の整備及び拡充を検討・推進する。</p>	<p>図書、業務 業務主任・図書部長</p>	<p>図書、業務 業務主任・図書部長</p>	<p>図書係</p>
29	<p>③ 独立行政法人日本学生支援機構など民間に連携し、各専攻における各種奨学金の活用を促進し、各専攻の学生生活の向上に寄与する。また、奨学金制度の拡充に向けた検討を行う。</p>	<p>③ 各専攻に対して各種奨学金制度の積極的な活用を促進する。奨学金申請中に高等専攻を対象とした奨学金団体の情報を提供し、各専攻における取組状況を把握し、その方針を各専攻に周知する。</p>	<p>③ 各種奨学金制度の積極的な活用を促進する。</p>	<p>③ 各種奨学金制度の積極的な活用を促進する。</p>	<p>厚生指導 学生主任</p>	<p>厚生指導 学生主任</p>	<p>学生支援係</p>
30	<p>④ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家に相談できる体制を充実させる。</p>	<p>④ 各専攻における企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を調査し、各専攻における取組状況を把握し、その方針を各専攻に周知する。</p>	<p>④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を調査し、その結果を踏まえ、施設整備を実施する。</p>	<p>④ 企業情報、就職・進学情報などの提供体制や相談体制を調査し、その結果を踏まえ、施設整備を実施する。</p>	<p>就業指導、教務 就業主任・学生主任</p>	<p>就業指導、教務 就業主任・学生主任</p>	<p>学生支援係・教務係</p>
31/1	<p>⑤ 平成26年3月に発生した東日本大震災により授業料等の負担が軽減されたことに基づき、授業料免除の経済的支援を引き続き実施する。</p>	<p>⑤ 東日本大震災により授業料等の負担が軽減されたことに基づき、授業料免除の経済的支援を引き続き実施する。</p>	<p>⑤ 東日本大震災により授業料免除等の経済的支援の対象となる学生を調査する。</p>	<p>⑤ 東日本大震災により授業料免除等の経済的支援の対象となる学生を調査し、該当者はなかった。</p>	<p>厚生指導 学生主任</p>	<p>厚生指導 学生主任</p>	<p>学生支援係</p>
31/2	<p>⑥ 教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の充実を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを実施する。</p>	<p>⑥ 教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の充実を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを実施する。</p>	<p>⑥ 教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の充実を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを実施する。</p>	<p>⑥ 教育環境の整備・活用 ① 施設・設備の充実を図るとともに、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを実施する。</p>	<p>施設整備等検討 業務主任</p>	<p>施設整備等検討 業務主任</p>	<p>施設係</p>
32	<p>② 産業構造の変化や技術の進歩に対応できる実践・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの導入、寄附者の整備、環境に配慮した施設の整備など安全・安心な教育環境の充実を計画的に推進すること。特に、施設の前震化等の向上に積極的に取り組む。</p>	<p>② 産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育環境の調査・分析を行い、施設・設備の更新・改修の必要性を把握し、必要に応じて施設・設備の更新・改修を進める。また、実習工場などの導入、寄附者の整備など安全・安心な教育環境の充実を計画的に推進すること。特に、施設の前震化等の向上に積極的に取り組む。</p>	<p>② 産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育環境の調査・分析を行い、施設・設備の更新・改修の必要性を把握し、必要に応じて施設・設備の更新・改修を進める。また、実習工場などの導入、寄附者の整備など安全・安心な教育環境の充実を計画的に推進すること。特に、施設の前震化等の向上に積極的に取り組む。</p>	<p>② 産業構造の変化や技術の進歩に対応した教育環境の調査・分析を行い、施設・設備の更新・改修の必要性を把握し、必要に応じて施設・設備の更新・改修を進める。また、実習工場などの導入、寄附者の整備など安全・安心な教育環境の充実を計画的に推進すること。特に、施設の前震化等の向上に積極的に取り組む。</p>	<p>施設整備等検討 業務主任</p>	<p>施設整備等検討 業務主任</p>	<p>施設係</p>
33	<p>③ 中期目標の期間中に専門科目の履修に当たっては全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>安全衛生 安全及び衛生管理責任者</p>	<p>安全及び衛生管理責任者</p>	<p>人事係・施設係</p>
34	<p>③ 中期目標の期間中に専門科目の履修に当たっては全ての教員・技術職員が受講できるように、安全管理のための講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>③ 学生及び教職員を対象に、常時携帯用の「実践実習安全必携」を交付したうえで配布するとともに、安全管理のための各種講習を実施する。</p>	<p>安全衛生 安全及び衛生管理責任者</p>	<p>安全及び衛生管理責任者</p>	<p>人事係・施設係</p>

大洲青少年交流の家に高専紹介コーナーが設置されました。

1月22日(火)、大洲青少年交流の家に新居浜工業高等専門学校(新居浜市)と弓削商船高等専門学校(越智郡上島町)の2高専を紹介するコーナーが設置されました。

オープニングセレモニーでは、新居浜高専鈴木幸一校長と弓削商船高専木村隆一校長が「各地から来所する小中学生や保護者の方に、より高専について知ってもらい、興味を持ってもらえる場として活用したい。特に南予地域から高専は遠く、このコーナーを通じて様々な方に見てもらいたい。」と挨拶がありました。

また、コーナー設置を受け入れた大洲青少年交流の家松岡孝次所長は「両校の新しい情報発信の場として、多くの小中学生らに利用されることを期待します。」と述べました。

当高専紹介コーナーには、2高専の入試情報のほか、寮生活に関する資料もあり、南予地域の小中学生らにとって、高専をイメージしやすい資料が置かれていますので、ぜひご利用ください。



国立高等専門学校合同説明資料(岡山県・広島県用)

国立高等専門学校の特徴

- ◆講義と実技による各分野の専門技術者を育成します。
- ◆課外活動や学寮生活により社会力を育成します。
- ◆求人倍率10倍以上・就職率100%を維持しています。
- ◆約30%の学生が専攻科や大学3年次へ進学しています。

教育内容と将来の活躍分野

学 科	定員	学習内容と目指す人材	将来の活躍分野	津山	広島	弓削
機 械 工 学 科	40人	幅広い分野における機械部品の設計・製作、機械設備や装置の保守管理のできる、創造性豊かな技術者を育てることを目指します。	機械、電気、運輸、精密機器、鉄鋼、食料、化学、医薬 など	○		
電子機械 工 学 科	40人	ものづくりに関して、機械、電気、電子から情報に至る幅広い分野の知識と技術を学び、教養豊かで視野の広い技術者を育てることを目指します。	電気、電子、機械、情報・通信、化学、運輸、造船分野 など			○
電気電子 工 学 科	40人	電気エネルギー・エレクトロニクス技術を通して地球環境を考えた技術開発のできる、創造性豊かな技術者を育てることを目指します。	電気、電子、情報・通信、電力、半導体、精密機器、化学 など	○		
電子制御 工 学 科	40人	電子制御の知識・技術を学び、家電製品、自動車やロボットなど設計・開発・製造できる技術者を目指します。	電力、電気、機械、精密機器、情報・通信、自動車、化学、運輸 など	○	○	
情 報 工 学 科	40人	コンピュータに関する専門知識とともに、力学、電気、電子、制御など工学分野の基礎知識も合わせて学び、他分野に対応できる情報処理技術者を育てることを目指します。	情報、通信、電気、自動車、運輸、情報・通信、技術サービス など	○		○
流通情報 工 学 科	40人	「流通・ビジネス」または「情報・通信」の知識・技術を学び、情報化社会やビジネスの最前線で活躍できる専門家を目指します。	官公庁、医療・福祉、商社、銀行、運輸、情報・通信、技術サービス など		○	
商船学科	40人	船舶の運航や管理に関わる知識と技術を身につけ、世界の海で活躍できる将来の船長や機関長を目指します。	海運(船長・機関長・運航管理、海上保険)、倉庫、機械、輸送機器 など		○	○

津山工業高等専門学校

〒708-8509 岡山県津山市沼624-1
TEL 0868-24-8292 <http://www.tsuyama-ct.ac.jp>

広島商船高等専門学校

〒725-9231 広島県豊田郡大崎上島町東野4272-1
TEL 0846-67-3022 <http://www.hiroshima-cmt.ac.jp>

弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000
TEL 0897-77-4619 <http://www.yuge.ac.jp>

学校生活

- ◆3高専とも課外活動が活発で、高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラムコンテストなどにおいて優秀な成績を収め、全国的に広く知られています。

<クラブ活動>

・スポーツ系 ・文化系

<大会・コンテスト・行事>

・高専体育大会
・ロボットコンテスト
・プログラムコンテスト
・英語弁論大会
・音楽祭 ・学園祭 など



校舎(弓削)



課外活動(弓削)プログラミング



校舎(津山)



課外活動(津山)ロボット

学寮生活

- ◆3高専とも学生寮が整備され、多くの学生が学寮生活を送っています。
- ◆自主性や協調性など社会力が身につく、企業など社会から高く評価されています。
- ◆昼間は事務職員、夜は当直教員が学寮生の生活をサポートしています。



校舎(広島)



学生寮(広島)

別表第3

海上輸送システム工学専攻教育課程表

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当				備 考	
			1 年		2 年			
			前期	後期	前期	後期		
専 門 基 礎 科 目	必 修	文 書 表 現 論	2		2			
		数 理 工 学	2	2				
		物 理 学 特 論	2		2			
		環 境 化 学 概 論	2	2				
		技 術 英 語 1	2	2				
		技 術 英 語 2	2		2			
		情 報 処 理 応 用 論	2		2			
		専門基礎科目必修単位数計	14	6	8			
専 門 科 目	必 修	特 別 研 究	16	2	2	5	7	
		海 事 科 学 実 験	4	2	2			
		海 事 科 学 演 習	2	1	1			
		専門科目必修単位数計	22	5	5	5	7	
	選 択	短期インターンシップ	1				1	
		長期インターンシップ	3				3	
		教 育 技 術 演 習	1				1	
		環境マネジメントシステム	2	2				
		商 船 シ ス テ ム 概 論	2	2				
		海 上 輸 送 工 学	2			2		
		危 機 管 理 学	2	2				
		船 舶 安 全 工 学 特 論	2	2				
		海 洋 環 境 法 規	2	2				
船 舶 工 学 特 論	2	2						
運 送 管 理 学 特 論	2			2				

専 門 科 目	選 撮	海事シミュレーション工学	2		2			
		航海システム論	2			2		
		海上交通工学特論	2	2				
		海 難 論	2				2	
		海 運 経 済 特 論	2		2			
		海 事 国 際 法	2	2				
		海 上 労 働 論	2			2		
		船体運動力学特論	2		2			
		エネルギー変換学	2		2			
		熱 機 関 工 学	2		2			
		制 御 特 論	2				2	
		機 械 加 工 学	2		2			
		弾 塑 性 学	2			2		
		コンピュータ機械設計	2	2				
		機関システム工学	2			2		
		材 料 学 特 論	2		2			
		潤 滑 工 学 特 論	2	2				
		専門科目選択単位数	55	20	14	12	9	26単位以上修得
		専 門 科 目 単 位 数 計	77	25	19	17	16	48単位以上修得
合 計	91	31	27	17	16	62単位以上修得		

別表第4

生産システム工学専攻教育課程表

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当				備 考
			1 年		2 年		
			前期	後期	前期	後期	
専 門 基 礎 科 目	必 修	文 書 表 現 論	2	2			
		数 理 工 学	2		2		
		物 理 学 特 論	2	2			
		環 境 化 学 概 論	2		2		
		技 術 英 語 1	2		2		
		技 術 英 語 2	2	2			
		情 報 処 理 応 用 論	2	2			
		専門基礎科目必修単位数計	14	8	6		
専 門 科 目	必 修	特 別 研 究	16	2	2	5	7
		技 術 文 献 ゼ ミ	2	1	1		
		生産システム工学実験	2	2			
		生産システム工学演習	2				2
		専門科目必修単位数計	22	5	3	5	9
専 門 科 目	選 択	短期インターンシップ	1				1
		長期インターンシップ	3				3
		教 育 技 術 演 習	1				1
		生産システム工学概論	1	1			
		感 性 工 学	2			2	
		セ ン シ ン グ 論	2			2	
		数 値 解 析 特 論	2	2			
		計 算 機 制 御 シ ス テ ム	2		2		
		ソフトウェア工学特論	2			2	
		画像応用システム工学	2		2		

専 門 科 目	選 択	人工知能特論	2		2		
		ロボティクス	2		2		
		精密加工学	2			2	
		エネルギー変換学	2	2			
		材料強度学	2		2		
		弾塑性学	2				2
		コンピュータ機械設計	2		2		
		トライボロジー	2		2		
		材料学特論	2	2			
		システムLSI設計	2				2
		信号処理論	2			2	
		電子回路応用	2				2
		離散数学	2			2	
		コンピュータネットワーク	2			2	
		環境マネジメントシステム	2				2
		データ構造	2		2		
		専門科目選択単位数	50	7	16	14	13
専門科目単位数計	72	12	19	19	22	48単位以上修得	
合 計	86	20	25	19	22	62単位以上修得	

海事教育フォーラム

ALL SHOSEN 学び改善プロジェクト

-商船学科におけるわかりやすい学び、定着する学びを目指して-

主催： 富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校

日時(案)：	平成 25 年 2 月 8 日(金)	12:00~13:00	会場準備・リハーサル
		14:00~17:00	フォーラム・講演
		17:30~19:30	懇親会

会場(案)： 東京 海運倶楽部 2F ホール(フォーラム・講演) 懇親会(3F 303・304)
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-4 海運ビル
el.03-3264-1825 Fax.03-3221-0228





国立弓削商船
高等専門学校

船舶学科
電子機械工学科
情報工学科
海上輸送システム工学科
生産システム工学科

HOME
ニュース
お問い合わせ
リンク集
情報公開

弓削商船高等専門学校 -- Yuge National College of Maritime Technology --

- メインメニュー
 - ホーム
 - ニュース
 - ニュース投稿
 - アーカイブ
 - 校長あいさつ
 - 本校の教育方針・教育目標
 - 学校案内
 - クラブ活動
 - 環境への取り組み
 - 環境美化への取り組み
 - 入試情報
 - シラバス
 - 学事予定表
 - 情報公開
 - FAQ
 - ダウンロード
 - リンク集
 - 本校へのアクセス
 - ご意見・お問い合わせ
 - 工事・調達情報
 - 個人情報の取扱
- 訪問者別メニュー
 - 受験生の皆さんへ
 - 企業の皆様へ
 - 地域の皆様へ
 - 学生の皆様へ
 - 卒業生の皆様へ
- 学科紹介
 - 総合教育科
 - 商船学科
 - 電子機械工学科
 - 情報工学科
 - 専攻科
- 学内WWWサーバ
 - 情報処理教育センター
 - 白砂寮
 - 地域共同研究推進センター
 - 技術振興会
 - 同窓会
 - 図書館
 - @E-learning
 - @WebMail
 - @Aipo
- 学生向け情報
 - 学生連絡
 - 授業変更
- 検索

高度な検索

トピックス：タイ王国「ナコンパノム大学」を訪問し国際交流

投稿者：webmaster 投稿日時：2013-1-18 10:37:35 (619 ヒット)

□ 商船高専では、本校と国際交流協定を締結しているタイ王国のナコンパノム大学に教員2名、技術職員1名、学生7名(計10名)が、12月18日～12月27日の10日間訪問し、「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」の共同プロジェクトの実施と学術・文化交流を行った。

滞在中は、共同開発中の「無人ロボットによるメコン川での水深・温度マップの計測実験」、「高専紹介」、「タイ・日本料理の調理実習」、「パイロット養成学科の見学」などを通し、現地の学生との交流を深めた。参加した学生からは、「タイ国に多くの友人ができた」、「異文化に触れ、外から日本を見ることができた」、「語学力の必要性を感じた」、「海外に行くことへの抵抗感が無くなった」、「海外留学してみたい」等の声が聞かれ、非常に貴重な体験をする機会となった。








IPv6 Ready

IPv6

certified by ipv6-cert.com

本校は全国高専に先駆けて
2012年3月からIPv6に完全対応して
います。
・導入事例 (アライドテレシス)

□ ファンページ

平成 25 年度
弓削商船高等専門学校・広島商船高等専門学校・大島商船高等専門学校

商船学科複数校志望受検制度 入学志願者 調査書

受検番号 ※

ふりがな							性別								
氏 名							男・女		平成 年 月 日 中学校 卒業・卒業見込み						
生年月日		平成 年 月 日 生													
学 習 の 記 録	教 科	第 3 学年観点別学習状況			評 定			教 科	第 3 学年観点別学習状況			評 定			
		観 点	評価	1年	2年	3年	観 点		評価	1年	2年	3年			
	国 語	関心・意欲・態度						音 楽	関心・意欲・態度						
		話す・聞く能力							感受や表現の工夫						
		書く能力							表現の技能						
		読む能力							鑑賞の能力						
	社 会	関心・意欲・態度						美 術	関心・意欲・態度						
		社会的な思考・判断							発想や構想の能力						
		技能・表現							創造的な技能						
		知識・理解							鑑賞の能力						
	数 学	関心・意欲・態度						保 健 体 育	関心・意欲・態度						
		数学的な見方や考え方							思考・判断						
		表現・処理							運動の技能						
		知識・理解							知識・理解						
	理 科	関心・意欲・態度						技 術 ・ 家 庭	関心・意欲・態度						
		科学的な思考							工夫し創造する能力						
		技能・表現							生活の技能						
		知識・理解							知識・理解						
	評定小計※														
	3年間の評定合計※														
	第3学年観点別学習状況のAの数※														
	" Cの数※														
	出 欠 の 記 録	等	出席停止・忌引等	欠席日数	遅刻回数	早退回数	理 由								
		第1学年					-----								
第2学年						-----									
第3学年						-----									
特 別 活 動 の 記 録	学 年	学 級 活 動					生 徒 会 活 動								
	第1学年	-----					-----								
	第2学年	-----					-----								
	第3学年	-----					-----								
行 動 の 記 録	基本的な生活習慣	健康・体力の向上	自主・自律	責任感	創意工夫	思いやり・協力	生命尊重・自然愛護	勤労・奉仕	公正・公平	公共心・公德心					
特技（資格等を含む。）															
部 活 動 ・ 校 外 活 動	第1学年	-----					総 合 所 見								
	第2学年	-----													
	第3学年	-----													
記載責任者							職・氏名		印						
本書の記載事項に誤りのないことを証明します。															
平成 年 月 日															
学校名															
校長氏名															
職印															

平成24年度第1回入学試験委員会議事概要

日 時 平成24年6月7日(木) 16:30～17:22

場 所 第1会議室

出席者 別紙のとおり

議 題

(審議事項)

(1) 平成25年度学生募集要項(案)について

副委員長から、平成25年度学生募集要項(案)について、昨年度からの変更点について審議資料1に基づき説明があった。

委員長から、別紙審議資料1に基づき、審議願いたい旨発言があり、審議した結果、次のとおり変更することです承された。

・P16 検査場案内 弓削検査場の地図中、尾道港－土生港の点線を削除し、三原港－土生港の点線を追加する。

・「本校への交通案内」中、【平成24年5月1日現在】を削除する。また、4. 尾道駅－尾道港(快速船50分)を削除する。

(2) 平成25年度編入学生募集要項(案)及び実施要領(案)について

①平成25年度編入学生募集要項(案)について

副委員長から、平成24年度編入学生募集要項(案)について、昨年度からの変更点について審議資料2-①に基づき説明があった。

委員長から、別紙審議資料2-①に基づき、審議願いたい旨発言があり、審議した結果、次のとおり変更することです承された。

・「本校への交通案内」中、【平成24年5月1日現在】を削除する。また、4. 尾道駅－尾道港(快速船50分)を削除する。

・弓削商船高等専門学校位置略図中、尾道港－土生港の点線を削除し、三原港－土生港の点線を追加する。

・「この募集要項は再生紙を使用しております。」を削除する。

②平成25年度編入学試験実施要領(案)について

副委員長から、平成25年度編入学試験実施要領(案)について、昨年度からの変更点について審議資料2-②に基づき説明があった。

委員長から、別紙審議資料2-②に基づき審議願いたい旨発言があり、審議した結果、原案どおり了承された。

(3) 学力による入学者選抜方法について

副委員長から、学力選抜における配点について、別紙審議資料3に基づき、説明があった。

委員長から、別紙審議資料3に基づき審議願いたい旨発言があり、審議した結果、原案どおり了承された。

(4) 岡山会場の新設について

副委員長から、岡山会場について、本校、津山工業高等専門学校及び広島商船高等専門学校の3校で最寄地受検として実施したい。また、会場は、岡山大学一般教育棟としたい旨の説明があった。

委員長から、審議願いたい旨発言があり、審議した結果、平成25年度から岡山会場（岡山大学）の新設が了承された。

(5) 工業系学科の入試連携について

副委員長から、平成24年3月6日（火）に開催された平成23年度第2回 3商船高専将来計画検討委員会で、広島商船の村上校長から、工業系学科の複数校受検制度の実施について、各校持ち帰り審議し、次回の委員会に結果を報告することとなっている旨の説明があり、本校としては、平成25年度から限定的（会場、学科）に試行していきたい旨の説明があった。

委員長から、審議願いたい旨発言があり、審議した結果、平成25年度から限定的に試行することで了承された。

(報告事項)

(1) 瀬戸内三商船高専の入試連携について

副委員長から、瀬戸内三商船高専の入試連携について、次のとおり報告があった。

- ・3商船高専で入試制度が統一（5教科、面接なし）された。
- ・本年度の各検査場の世話校は、弓削=東京・大阪、広島=広島、大島=福岡、大島とする。
- ・学力検査室等は、学力検査室1、予備検査室1、監督者控室1の3室を基本し、合理化・効率化を図る。

(2) 編入学試験の問題及び解答の公表について

副委員長から、平成23年12月21日付けで、機構本部から、受験生等の便宜に資するためにも、少なくとも過去3年分の編入学及び専攻科の入学試験問題等を、ホームページで公開することについて、検討するよう依頼がきている。本校としては、著作権等の問題があるため、機構の対応を含め、継続して検討していくこととなった。

学力選抜における配点について**[昨年度まで]**

1. 学力検査3教科（数学 200 点，英語，国語は各 100 点）を 400 点，
内申点（主要 5 教科×2，他の 4 教科×1）で 210 点，
総合計 610 点。
2. 面接点は 5 点満点とし，2 及び 1 の評価の場合は審議する。
3. 入学者の選抜は，学力検査，面接，調査書及び健康診断証明書（商船学科を志望する者）の結果を総合して行う。

[改正案]

1. 学力 5 教科（数学 200 点，英語，国語，理科，社会は各 100 点）を 600 点，
内申点（主要 5 教科×2，他の 4 教科×1 で 210 点を 1.5 倍）を 315 点とし，
総合計 915 点とする。
（参考：愛媛県立高校→学力検査 250 点又は傾斜配分 300 点，調査書 135 点）
2. 調査書から観点別学習状況の C 評価の数を集計する。
3. 入学者の選抜は，提出書類の評価と志望する学力検査の評価を総合して行う。

ださい。

- 4) 出願書類を郵送する場合は、必ず書留郵便にしてください。
- 5) 入学願書受付後は、出願書類は一切返還しません。
- 6) 振り込み済みの入学検定料は、次の場合を除きいかなる理由があっても返還しません。
(ア) 入学検定料を振り込んだが、出願書類を提出しなかった場合又は出願が受理されなかった場合。
(イ) 誤って入学検定料を二重に振り込んだ場合。
なお、上記(ア)又は(イ)に該当する場合は、速やかに学生課入試係へご連絡ください。
- 7) 願書受付後は、記載事項の変更は認められません。
- 8) 受検票は願書受付後に志願者あてに発送します。お手元に届かない場合は連絡してください。

3. 入学者選抜方法

本校が実施する学力検査、調査書及び健康診断証明書（商船学科を志望する者）の結果を総合して行います。

4. 学力検査の日時及び検査科目並びに受検地及び検査場

(1) 検査日時及び検査科目

検査日	時間	検査科目
平成25年 2月24日(日)	9:30~10:20	理科
	10:40~11:30	英語
	11:50~12:40	数学
	13:30~14:20	国語
	14:40~15:30	社会

注) 午前9時までに、入学願書に記入した受検地の検査場に集合してください。

(2) 受検地及び検査場

受検地	検査場	所在地
弓削	弓削商船高等専門学校	愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000 番地
東京☆	オフィス東京	東京都港区海岸 1-4-7
大阪☆	大阪ガーデンパレス	大阪市淀川区西宮原 1-3-35
松山	えひめ共済会館	松山市三番町 5-13-1
今治	今治地域地場産業振興センター	今治市旭町 2-3-5
宇和島	えひめ南 JA 会館	宇和島市栄町港 3-303
高松	ホテルマリパレスさぬき	高松市福岡町 2-3-4
尾道	尾道ロイヤルホテル	尾道市土堂 2-9-27

福 山	穴吹情報デザイン専門学校	福山市東町2-3-6
広 島☆	広島県立産業技術交流センター (広島県情報プラザ内)	広島市中区千田町3丁目7-47
岡 山◇	岡山国際交流センター	岡山市北区奉還町2丁目2-1
福 岡☆	サンライフホテル2・3号館	福岡市博多区博多駅東1-12-3

注) ☆印の受検地は、本校、広島商船高等専門学校及び大島商船高等専門学校の合同検査場となります。

◇印の受検地は、本校、津山工業高等専門学校及び広島商船高等専門学校の合同検査場となります。

(3) 留意事項

(ア) 検査当日は、検査場入口で受検票を提示し、係員の指示に従い9時までに検査場へ入室してください。

(イ) 携帯電話等は、検査場に入る前に電源を必ず切って、カバンにしまってください。また、これらを時計として使用することはできません。

(ウ) 机の上に置けるものは、「受検票」、「筆記用具」及び「時計（計時機能だけのもの）」です。

(エ) 上履きは必要ありません。

(オ) 昼食等は、各自で持参してください。

(カ) 受検票を忘れた場合は、係員に申し出て、仮受検票の発行を受けてください。

5. 身体基準

商船学科を志望する者(第1から第3志望者までを含む。)は、健康診断証明書が必要ですが、電子機械工学科及び情報工学科については必要ありません。

ただし、商船学科志望者の中で本校が特に必要と認める者については、改めて健康診断を行います。

◎ 商 船 学 科

健康診断の基準

区 分	基 準
視 力	視力(矯正視力を含む。)が両眼共に0.6以上であること。(注1)
弁色力(色覚)	色盲又は強度の色弱(注2)でないこと。(軽度の色弱又はその疑いがある者は、眼科医の診断書を添付すること。)
聴 力	5m以上の距離で話声語を弁別できること。
疾病及び身体機能の障がい	疾病または身体機能の障がいがあっても軽症で修学(練習船実習を含む。)に支障がないこと。(注3)

注1) 視力が「C」の場合は数値で記入してください。

注2) 弁色力(色覚)については、小中学校の定期健康診断の必須科目から削除されていますが、商船学科受検においては、「色盲又は強度の色弱でないこと」の条件が必要とされるため、眼科受診をし、「パネルD-15」を用いた検査に合格することを確認してください。なお、「パ

複数校志望受検制度実施について

弓削商船高専 浜中 俊一

H125 四国地区高専教員研究会

1

複数校志望受検の現状

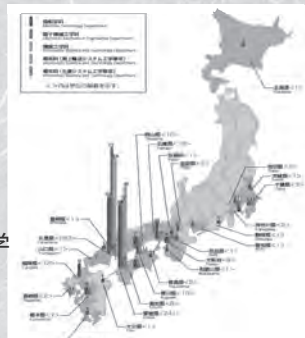
1. 瀬戸内3商船高専で最寄地受検でシミュレーション後、商船学科について3年間実施
2. 今年度から、工業系学科(電子系)について弓削と広島の高専の2校で実施
3. 来年度から、旭川高専と釧路高専で実施予定

H125 四国地区高専教員研究会

2

学生の出身地別統計(弓削高専)

- 本科
 - 商船学科
 - 電子機械工学科
 - 情報工学科
- 専攻科
 - 生産システム工学
 - 海上輸送システム工学



H125 四国地区高専教員研究会

目的

複数校志望選抜実施要項を作成

高専機構のスケールメリットを生かした入試業務運営の弾力化により、各高専が行う「学力検査による選抜」において、受検者への進路選択の可能性を拡大することにより志願者増を図り、ひいては優秀な入学者を確保することを目的とする。

H125 四国地区高専教員研究会

4

入試制度改革の経緯

1. 平成21年度に高専機構から4パターン提示
2. 平成22年度入試は、シミュレーションとして、学外の3検査場で最寄地受検を実施
3. 平成23年度入試から瀬戸内3商船高専で商船学科の複数校志望受検制度及び最寄地受検制度を実施
4. 平成26年度入試から工業系学科(広島高専:電子制御工学科, 弓削高専:電子機械工学科)の複数校志望受検制度及び最寄地受検制度を実施

H125 四国地区高専教員研究会

5

基本方針

「学力検査による選抜」において、1校の学科を第1志望校、他校の学科を第2志望校とした2校にかかる選抜への出願を認める。ただし、2校に合格することは出来ない。第1志望校の合格を優先とする。

H125 四国地区高専教員研究会

6

実施に向けての準備作業等

1. 各校内でのコンセンサス
2. 打ち合わせ会の実施
(教務主事, 学生課長, 担当教職員)
3. 業務分担
 - ・全体の取り纏めと高専機構への連絡
 - ・実施要領作成と予備問題の取り纏め
 - ・学生募集要項の作成と面接対応

H25 四国地区高専教員研究会

7

実施方法

1. 出願書類: 第1志望校に提出し、写しを専用サイトスフォルダーを経由し第2志望校へ回付
2. 検査場: 世話校を決める。
商船学科: 東京、大阪、広島、福岡、大島高専
工業系学科: 岡山、福山、弓削高専、広島高専
3. 予備問題: 共有し各校の科目担当教員によって点検
4. 受検番号: 5桁とし、一桁目で各校ごとに仕分けを行う。
5. 採点: 採点の事前調整を行った上で第1志望校で行う。

H25 四国地区高専教員研究会

8

選抜方法

1次選考(第2志望分を含む)を各校の選抜基準により判定



複数校志願者の1次選考結果を合同会議(選考確認会議, 広島市)で確認



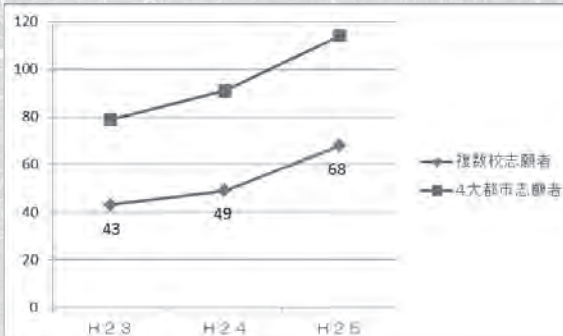
各校で2次選考会議で合否の最終決定
(その際, 選考確認会議の決定は変更しない)

H25 四国地区高専教員研究会

9

中学生への周知
新制校紹介
国立商船専門学校合同説明資料(岡山県・広島県用)

商船学科複数校及び最寄地受検志願者数の推移



H25 四国地区高専教員研究会

11

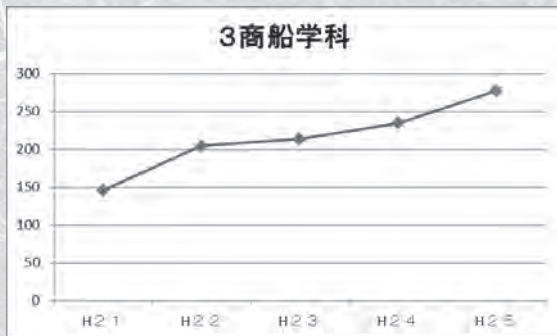
合同検査場志願者数の推移

検査場	東京	大阪	広島	福岡	合計
H22	2	5	33	14	54
H23	5	9	41	24	79
H24	10	4	59	18	91
H25	9	15	57	33	114

H25 四国地区高専教員研究会

12

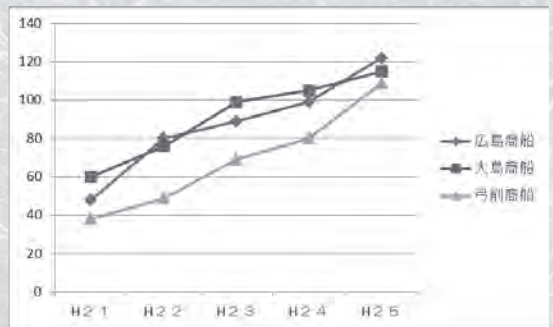
3商船学科志願者数の推移



H25四国地区高専教員研究会

13

各校の商船学科志願者数の推移



H25四国地区高専教員研究会

14

H25併願組み合わせ別志願者数

併願組合せ	志望者	合格者			入学者		
		第1志望校	第2志望校	計	第1志望校	第2志望校	計
1 弓削-広島	4	2	0	2	2	0	2
2 弓削-大島	2	0	0	0	0	0	0
3 広島-弓削	18	3	2	5	3	2	5
4 広島-大島	8	2	0	2	2	0	2
5 大島-弓削	11	3	2	5	3	2	5
6 大島-広島	25	5	3	8	5	3	8
合計	68	15	7	22	15	7	22

H25四国地区高専教員研究会

15

商船学科複数校合格者及び入学者数

入試年度	合格者			入学者		
	第1志望校	第2志望校	計	第1志望校	第2志望校	計
H23	13	8	21	12	7	19
H24	16	11	27	15	11	26
H25	15	7	22	15	7	22

H25四国地区高専教員研究会

16

まとめ

1. 志願者の増加: 受検機会・選択肢を広げることが定着しつつある。
2. 志向性が強く入学率が高い: 受検生のニーズに応え得るこの制度の優位性を示している。
3. 入試制度の統一: 平成25年度入試から3校とも学力検査5科目面接無
4. 連携体制の構築: 学力検査当日及び採点日に3校間でテレビ会議システムを活用した入試対応

H25四国地区高専教員研究会

17

今後に向けて

1. 各検査場での検査員の効率化や事務的作業の煩雑さの軽減
2. 入学生の質の向上の検証
3. 工業系学科: 平成26年度入試から広島高専の電子制御工学科と弓削高専の電子機械工学科で複数校志望受検制度を実施 (岡山, 福山, 弓削商船, 広島商船)
平成27年度入試から, 旭川高専と釧路高専で複数校志望受検制度を実施予定

H25四国地区高専教員研究会

18

入学試験の実施状況

年度／事項	学科名	入学定員	全志願者数	推薦志願者数内数	志願倍率	受検者数	合格者数	入学者数		
								学力	推薦	計
平成25年度	商船学科	40	98(4)	52(3)	2.5	95(4)	45(4)	15(0)	27(3)	42(3)
	電子機械工学科	40	63(2)	24(1)	1.6	61(2)	54(2)	17(1)	23(1)	40(2)
	情報工学科	40	77(29)	27(12)	1.9	76(29)	65(23)	18(3)	24(10)	42(13)
	計	120	238(35)	103(16)	2.0	232(35)	164(29)	50(4)	74(14)	124(18)
平成24年度	商船学科	40	80(3)	30(1)	2.0	74(3)	44(3)	21(2)	21(1)	42(3)
	電子機械工学科	40	59(1)	33(1)	1.5	58(1)	47(1)	10(0)	29(1)	39(1)
	情報工学科	40	61(24)	26(16)	1.5	58(21)	52(21)	13(3)	25(16)	38(19)
	計	120	200(28)	89(18)	1.7	190(25)	143(25)	44(5)	75(18)	119(23)
平成23年度	商船学科	40	69(5)	37(3)	1.7	69(5)	47(4)	14(2)	27(2)	41(4)
	電子機械工学科	40	49(0)	19(0)	1.2	46(0)	39(0)	11(0)	15(0)	26(0)
	情報工学科	40	56(20)	23(10)	1.4	55(20)	52(20)	11(1)	21(10)	32(11)
	計	120	174(25)	79(13)	1.5	170(25)	138(24)	36(3)	63(12)	99(15)
平成22年度	商船学科	40	49(3)	23(1)	1.2	48(3)	38(1)	17(0)	16(1)	33(1)
	電子機械工学科	40	54(6)	28(5)	1.4	54(6)	48(4)	21(1)	16(1)	37(2)
	情報工学科	40	60(22)	32(13)	1.5	59(22)	51(18)	15(6)	21(8)	36(14)
	計	120	163(31)	83(19)	1.4	161(31)	137(23)	53(7)	53(10)	106(17)
平成21年度	商船学科	40	38(2)	21(2)	1.0	38(2)	30(2)	11(0)	16(2)	27(2)
	電子機械工学科	40	41(1)	16(0)	1.0	41(1)	34(1)	16(1)	11(0)	27(1)
	情報工学科	40	63(35)	25(13)	1.6	60(32)	55(30)	17(6)	15(8)	32(14)
	計	120	142(38)	62(15)	1.2	139(35)	119(33)	44(7)	42(10)	86(17)

()は女子で内数。

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校 F D 委員会規則)

○弓削商船高等専門学校 F D 委員会規則

制 定 平成23年 2 月17日

最終改正 平成23年12月22日

(設置)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第 2 項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント（以下「F D」という。）委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、本校の F D 活動に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業内容や教育方法等の改善・向上に関する事項
- (2) 授業評価及び成績評価に関する事項
- (3) その他教育改善の推進に関する事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 各学科及び総合教育科から選出された教員各 2 名
- (4) 学生課長

2 前項第 3 号の委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、前条第 1 項第 1 号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 5 条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第 6 条 委員会の庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成23年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年12月22日から施行する。

平成 24 年度 FD 実施報告

平成 25 年 3 月末日

1. FD 関係研修会の開催及び参加 (SPOD 事業を含む)

高専機構主催

新人教員研修会

出席なし

中堅教員研修会 (クラス運営・生活指導研修会)

1-1

9/11-13 情報工学科 塚本教員

管理職教員研修会

1-2

9/24,25 商船学科 児玉教員

四国地区高専主催

四国地区高専化学 F D 会議

1-3

4/27 香川高専詫間キャンパス

11/30-12/1 阿南高専

総合教育科 伊藤教員

中国・四国地区工学教育協会高専教育部会教員研究集会 (11/30)

1-4

「白砂寮における外泊願と欠食の Web 化」

情報工学科 峯脇教員

SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)

FD 講演会 (6/15)

1-5

「ティーチング・ポートフォリオ入門－教育実践のリフレクション」

愛媛大学教育企画室 佐藤浩章 氏

SPOD フォーラム (8/22-24)

1-6

総合教育科 藤井教員

情報工学科 田房教員

愛媛県内 SPOD 加盟校会議 (年 2 回)

1-7

第 1 回会議 (7/11) 愛媛大学 総務 松田課長

情報工学科 田房教員

第 2 回会議 (H25/2/14) 愛媛大学 総務 松田課長

情報工学科 田房教員

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法 (DVD 受講)

1-8

1 月 17 日

情報工学科 長尾教員

大学入門ゼミ・共通コンテンツの教え方－協同学習の基本 (入門編)

1-9

3 月 11 日

総合教育科 藤井教員

全国高専教育フォーラム(8/28-30)

教育研究講演

「弓削商船、情報工学科の初年次教育への取り組み」

情報工学科 高木教員

「ビジネス手帳を用いた学生指導の取り組み」

「IPv6 完全対応を目的としたキャンパスネットワークシステムの移行」

情報工学科 長尾教員

教員顕彰講演〔理事長賞（若手部門）

「ICTを活用した地域貢献と保護者と連携したクラス運営」

情報工学科 田房教員

2. 保護者による授業参観

実施日：4月28日（土）

12府県から113人の学生の保護者が参観し、総数は197名

3. ティーチング（アカデミック）ポートフォリオの作成

弓削商船高専(7/22-24)

メンター：阿南高専2名，電子機械工学科 藤本教員

メンティー： 商船学科 二村教員

電子機械工学科 政家教員

情報工学科 田房，榎田，前田教員

阿南工業高専(9/12-14)

アカデミックポートフォリオ メンティー：情報工学科 田房教員

愛媛大学(12/21-23)

メンティー： 総合教育科 久保教員

阿南工業高専(3/11-12)

メンティー： 総合教育科 坂内教員

4. 出前授業

SPP（サイエンスパートナーシッププロジェクト）

海をきれいに“環境教育プロジェクト” 電子機械工学科 益崎教員

どうして船は浮かんで動きまわるのか？ 商船学科 湯田教員

出前授業

生名小「バスケットボール授業」（5/14） 総合教育科 水崎教員

弓削中「ロボット講座」（5/31） 益崎，榎根，徳田，前田教員

岩城小「環境教育」（10/25） 電子機械工学科 益崎教員

岩城中「プログラミングとロボット」（10/25） 情報工学科 徳田教員

5. 公開授業・研究授業

研究授業

商船学科 (1/28)	向瀬教員(電気機器 2 : S4E)	5-1
電子機械工学科(2/19)	大根田教員 (機械工作法 : M3)	5-2
情報工学科(1/29)	前田教員 (電子計算機 : I2)	5-3
総合教育科(2/21)	水崎教員 (体育 : 1年)	5-4

公開授業

総合教育科		5-5
芸術 (1年) 音楽選択者によるおさらい会 (2/19)	阿部教員	
電子機械工学科		5-6
インターンシップ報告会 (9/12)		
情報工学科		5-7
工学実験 (I1) 成果発表会 (2/4,18)	実験担当教員	
工学実験 (I2) 成果発表会 (2/13,20)	実験担当教員	
プログラミング基礎 (I2) アプレット作品発表会(2/19)	田房教員	
工学実験 (I3) 成果発表会 (2/21)	実験担当教員	
プログラミング特論 (I4) プログラミング特論発表会(10/16)	長尾教員	
工学実験 (I4) 成果発表会 (2/12)	実験担当教員	
データベース (I4) WebDB 作品発表会(2/19)	田房教員	
インターンシップ報告会 (2/19)		

6. 学生による授業評価

6-1

調査期間： 平成 25 年 1 月 18 日 (金) ~1 月 25 日 (金)

教員コメント入力： 平成 25 年 1 月 28 日 (月) ~2 月 1 日 (金)

学生および教職員公開： 平成 25 年 2 月 12 日 (月) ~3 月末 (Web 閲覧のみ)

*サーバの不都合により教員のコメント入力できず、アンケート結果は、ファイル共有によって公開する。

7. その他

全国高専学習到達度試験	7-1
四国地区高専化学共通試験	7-2
答案用紙の電子化状況チェックシート	7-3
卒業（修了）生へのアンケート	7-4
卒業（修了）の就職企業へのアンケート	7-5
卒業・修了時到達度アンケート	7-6
専攻科新カリの実施（3つの新科目の導入）	7-7
短期インターンシップ	
長期インターンシップ	
教育技術者演習	
シラバス改善（学習単位における自学自習時間の明記）	7-8
A-STEP 公募説明会(6/12)	7-9
四国地区産学官連携コーディネータ 関 丈夫 氏	
科学研究費補助金説明会(10/1)	7-10
講師 本校 木村隆一 校長	
第 55 回教員研究懇談会(3/1)	7-11
「鹿児島高専における教育体制の紹介と弓削商船高専への提案」	
電子機械工学科 榎根 健史教員	
「集団安全保障について」	
総合教育科 山尾 徳雄教員	
日本工学教育協会「工学教育」への論文掲載	7-12
「中国・四国工学教育協会高専部会の活動状況報告」, Vol. 61(2013) No. 1	
電子機械工学科 藤本教員	
公益財団法人画像情報教育振興(CG-ARTS)協会合格率部門優秀賞受賞	7-13

資料 15

教員研修歴等一覧

	主催者名	研修等名称	平成24年度	備考	担当係
研修	高専機構	高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)	塚本		人事係
		高等専門学校教員研修(管理職研修)	児玉		人事係
		ネットワーク管理者研修会	田房、伊藤芳		人事係
		情報担当者研修会	田房		情報・広報係
	阿南工業高等専門学校	ティーチングポートフォリオ開発ワークショップ(高専対象) 高専ティーチングポートフォリオ(TP)作成ワークショップ(H23～)	二村、政家、田房、樹田、前田、藤本(メンター)※弓削・阿南共催 田房(AP)※阿南高専主催 坂内(予定3/11～12)		教務係
	愛媛大学(SPOD)	ティーチングポートフォリオ(TP)作成ワークショップ	久保		教務係
		FDプログラム	長尾(DVD 学生の学びを促すシラバスの書き方) 藤井(大学入門ゼミ・共通コンテンツの教え方-協同学習の基本(入門編)- 香川大学 予定)		教務係
		SPODフォーラム	藤井、田房		人事係
	大学評価・学位授与機構	高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会	多田 伊藤(芳)	対象は教職員	企画係
	日本学生相談学会	全国学生相談研修会	多田		学生支援係
研究集会	高専機構	高等専門学校メンタルヘルス研究集会	尹(カウンセラー) 若松(看護師)		学生支援係
		留学生・国際交流担当教員研究集会	野口	メンタルヘルス研究協議会と同時開催	教務係
		全国高専教育フォーラム	情報処理教育研究発表会	長尾	H22年度から全国高専教育フォーラムとして合同開催
	豊橋技術科学大学	豊橋技科大教員研究集会	益崎		企画係
	長岡技術科学大学	高専・長岡技科大(機械系)教員交流研究集会	大根田		企画係
	中国四国工学教育協会	高専教育部会教員研究集会	峯脇、濱中	H24～リストに追加	企画係
協議会	日本学生支援機構	中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会(大学との共同主催)(H23まで) 四国地区高専学生相談室連絡協議会(H24～)	木村校長(教員) 神谷(教員) 若松(看護師)	平成24年度から、中国・四国地区は、廃止、平成24年度から「四国地区高専学生相談室連絡協議会」に変更	学生支援係
	高専機構	男女共同参画推進協議会	猪川		人事係
	中国・四国地区高専	中国・四国地区高等専門学校図書館長会議	藤井		情報・広報係
ガイダンス	学生支援機構	全国就職ガイダンス	木村		学生支援係
その他	四国地区高専	四国地区高等専門学校化学教員FD会議	伊藤(武)		教務係

平成 22 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

期間：平成 22 年 7 月 26 日（木）～ 28 日（土）

場 所： 阿南工業高等専門学校

主 催： 阿南工業高等専門学校

受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
電子 機械工 (教授)	藤本 隆士	TP	二泊三日の研修に加え、事前課題もあり、かなり大変ではあったが、参加した甲斐があった。	○

平成 23 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

期間：平成 23 年 8 月 24 日（水）

場 所： 愛媛大学

主 催： SPOD ネットワーク（愛媛大学教育企画室）

受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
電子 機械工 (教授)	藤本 隆士	更新 TP	前年度に作成した TP を更新するためのワークショップであり、他大学の TP 受講者らと情報交換ができ、自分とは異なった視点から作成された TP を読み、参考になった。	○

日 時： 平成 24 年 3 月 9 日（金）～ 11 日（日）

場 所： ホテルグランドパレス徳島 5 階

主 催： 阿南工業高等専門学校

受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
情報工 (准教授)	伊藤 芳浩	TP	教員としていろいろと考えさせられた、もっと深く考えて教育に関わっていかなければならないと思いました。	×
情報工 (准教授)	徳田 誠	TP	本稿の作成は、これまで漠然としてしか捉えていなかった校務をふかんし、教育活動を見つめ直す良い機会となった。しかしながら、理念から方法、および方法から成果への対応付けが上手く書けなかった。今後は、理念に基づいて筋の通った教育を行い、学生の成長を客観的に検証できるよう努めたい。	○

平成 24 年度

アカデミック／ティーチング・ポートフォリオの実績

日時： 平成 24 年 7 月 22 日（金）～ 1 1 日（日）
 場所： 弓削商船高等専門学校 ものづくり研究棟 3F
 主催： 弓削商船高等専門学校、阿南工業高等専門学校
 受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
商船 (准教授)	二村 彰	TP	教育方針を掘り下げて考えることができ、今後の授業および実習に非常に役に立つと思います。	×
電子 機械工 (助教)	政家 利彦	TP	今までやってきたことをまとめられたことと、これからの目標に関してまとめて再確認できたことは非常に有意義でした。短期に一気にではなく、もう少し時間をかけて作成したかったかもしれません。	×
情報工 (教授)	田房 友典	TP	教員としての活動の理念をはっきりと整理することができた。今後、更新を目的とすることで、自己啓発につなげることができる。	○
情報工 (講師)	樹田 温子	TP	ティーチングポートフォリオの作成は、自分自身を振り返る良い機会となった。	×
情報工 (助教)	前田 弘文	TP	多忙な業務から開放され、自分を見つめ直す時間を持てたことが大変有意義でした。また現在、クラブにも活用できないかとラーニングポートフォリオについて関心を持っています。	○

メンター

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）
電子 機械工 (教授)	藤本 隆士	TP	メンターとして気を使う立場であったが、良い経験となり、刺激も受けた。

日時： 平成 24 年 9 月 12 日（水）～ 14 日（金）
 場所： 阿南工業高等専門学校 創造テクノセンター4階 マルチメディア室
 主催： 阿南工業高等専門学校
 受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
情報工 (教授)	田房 友典	AP	教育・研究・サービスについて、経験によるそれぞれの責務の割合の変化を認識できた。また、自分にとって不足するものや今後の目標を明確にすることができた。	○

日時：平成24年12月21日（金）～23日（日）

場所：愛媛大学城北キャンパス 愛大ミュージアム

主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
総合 教育 (准教授)	久保 康幸	TP	自分の教育を整理するつもりで作成した。 他の参加者は皆、りっぱな発表ばかりで感心した。	×

日時：平成25年3月11日（月）～12日（火）

場所：阿南工業高等専門学校 会議室

主催：阿南工業高等専門学校

受講者（メンティー）：

所属 (役職)	教員名	AP/TP	概要（感想）	公開
総合 教育 (准教授)	坂内 宏行	TP	今年度私が発足させた ESS 同好会における活動記録を主な素材として、TP を作成した。本ワークショップには英語教員が3名も参加していたため、TP 披露会では他高専の英語授業スタイルを知ることができてよかった。	×

平成24年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート集計結果

研修名: ティーチング・ポートフォリオ入門-教育実践のリフレクション-
 講師名: 佐藤浩章(愛媛大学)
 実施日: 平成24年6月15日(金)
 実施会場: 弓削商船高等専門学校

当日参加者数: 15名
 アンケート回答者数: 13名

1. 参加者ご自身について
 職種

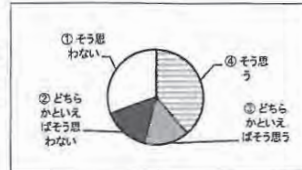
	度数	割合
① 教員	13	100.0
② 職員	0	0.0
③ 学生	0	0.0
④ その他()	0	0.0
計	13	100.0

その他の記述内容

2. この研修について

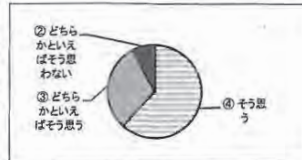
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	度数	割合
④ そう思う	5	38.5
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	4	30.8
計	13	100.0



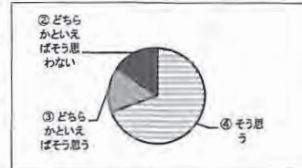
(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	度数	割合
④ そう思う	8	61.5
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



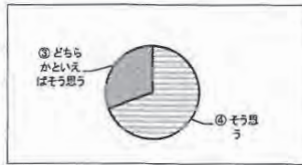
(3) 研修の到達目標が明確に示されていた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



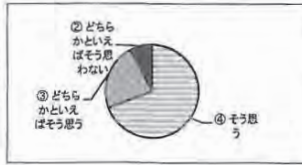
(4) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	4	30.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



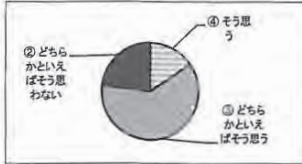
(5) 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④ そう思う	9	69.2
③ どちらかといえばそう思う	3	23.1
② どちらかといえばそう思わない	1	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



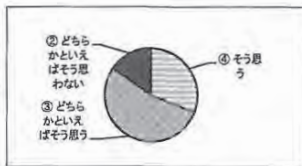
(6) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④ そう思う	2	15.4
③ どちらかといえばそう思う	8	61.5
② どちらかといえばそう思わない	3	23.1
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



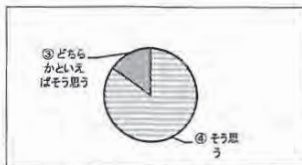
(7) 受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④ そう思う	4	30.8
③ どちらかといえばそう思う	7	53.8
② どちらかといえばそう思わない	2	15.4
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



(8) 研修は全体的に満足できるものだった

	度数	割合
④ そう思う	11	84.6
③ どちらかといえばそう思う	2	15.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	13	100.0



3. この研修を受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- 頭がスッキリしました。自分の授業を客観的に聞いてもらえるのがよいと思う。
- 日々の収集(エビデンスの)
- 自分の教育理念の整理につながった。
- 今後の課題が明確になった。
- ポートフォリオの意味、位置づけが漠然とわかった。
- 義務化は難しいとはいえ、効果を考えるともっと普及すべきであると改めて認識した。今後の教育内容の評価、改善のために活用していきたい。
- ペアでできたことが良かった。他の先生とも同じような交流をしたいと思えた。大変スッキリした気持ちになった。
- よい復習になったと思う。
- 他方面から自分のポリシーを観察できて、気がつかなかったことが見付き、大変良かったです。
- ティーチング・ポートフォリオの作り方のさわりを知ることができた。
- 自ら考えていたことを少しは整理でき、掘げられたと思う。
- 多くの質問があり、丁寧に答えていただいたと思います。
- TPの歴史がよく分かったこと。
- 佐藤先生を知ることができたこと。
- ミニWSがあり、TPの概要をより理解することができた。

4. この研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

- 回数をこなしてなれることが大事と思う。
- 難しいかもしれないが、年に1回ではなく、何度かできればよい。
- 実習の時間がもうちょっとあった方がよかったと思う。
- トークと作業を分けるのではなく、交互に実施していただければ、分かりやすいかもしれません。
- 研修の目的や教育の目的はここに就職する際にまとめてくれたものがあり、本日はその再認識に留まった。新しく、あるいは集約された理念が導かれなかったのが、それが得られるとありがたい。

授業参観に関するアンケート結果

1 参加者数

	1年	2年	3年	4年	5年	計
商船学科	22 (48)	4 (6)	3 (7)	2 (3)	1 (1)	32 (65)
電子機械工学科	23 (37)	6 (6)	10 (14)	2 (2)	0 (0)	41 (59)
情報工学科	18 (34)	10 (22)	8 (11)	4 (6)	0 (0)	40 (73)
海上輸送システム工学専攻	0 (0)	0 (0)				0 (0)
生産システム工学専攻	0 (0)	0 (0)				0 (0)
計	63 (119)	20 (34)	21 (32)	8 (11)	1 (1)	113 (197)

※()は総数

2 地域別参加者数

県名	市町村	人数
埼玉県	所沢市	1 (1)
愛知県	一宮市	1 (2)
大阪府	寝屋川市	1 (1)
兵庫県	尼崎市	2 (6)
	神戸市	2 (3)
岡山県	岡山市	1 (2)
	倉敷市	1 (3)
	笠岡市	2 (4)
	玉野市	1 (3)
	赤磐市	1 (1)
	瀬戸内市	1 (2)
山口県	防府市	1 (3)
	周南市	2 (5)
福岡県	福岡市	1 (1)
徳島県	小松島市	1 (2)
香川県	高松市	1 (2)
	宇多津町	1 (2)
高知県	宿毛市	1 (3)
広島県	広島市	4 (7)
	東広島市	2 (3)
	府中市	2 (2)
	三原市	3 (5)
	福山市	12 (17)
	尾道市	22 (35)
	愛媛県	宇和島市
愛南町	1 (2)	
八幡浜市	1 (2)	
松山市	9 (17)	
四国中央市	1 (3)	
新居浜市	1 (1)	
今治市	23 (37)	
上島町	6 (11)	
合計		111 (191)

平成24年度 授業参観に関するアンケート結果

○ 授業参観全般に関する質問

1	授業参観の時期はいかがですか。	適切である 60	8	どちらともいえない 6	1	適切でない 0
2	授業参観は今後も必要ですか。	必要である 60	6	どちらともいえない 8	0	必要ない 1
3	授業参観に満足しましたか。	満足である 37	13	どちらともいえない 19	1	不満である 3

○ 教員の授業の進め方に関する質問

4	教員に意欲・熱意を感じますか。	感じる 41	21	どちらともいえない 8	1	全く感じない 2
5	教員の説明は聞き取り易いですか。	聞き取り易い 43	16	どちらともいえない 5	6	全く分からない 1
6	黒板の使い方は適切ですか。	適切である 37	20	どちらともいえない 9	3	適切でない 1

○ 学生の授業態度に関する質問

7	居眠りをしていませんでしたか。	ない 35	16	どちらともいえない 17	4	非常に多い 2
8	私語をしていませんでしたか。	ない 38	11	どちらともいえない 14	5	非常に多い 6
9	授業中ノートをとっていましたか。	よくとっている 26	28	どちらともいえない 10	5	全くとっていない 2

○ 授業の環境に関する質問

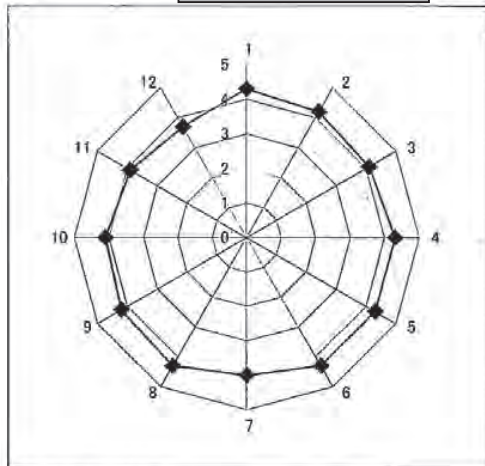
10	教室・実験室の設備はよいですか。	良い 42	15	どちらともいえない 12	3	悪い 0
11	教室・実験室の広さは十分ですか。	十分である 41	12	どちらともいえない 16	1	十分でない 1

学生による授業評価アンケート調査実施について

1. 実施スケジュール

教員への周知：	平成 24 年 11 月 8 日（木）教員会議，後日メール連絡
FD 委員会	メール審議
クラス担当教員説明：	個別対応
調査期間：	平成 25 年 1 月 18 日（金）～1 月 25 日（金）
教員コメント入力：	平成 25 年 1 月 28 日（月）～2 月 1 日（金）
学生および教職員公開：	平成 25 年 2 月 12 日（月）～3 月末（Web 閲覧のみ）
報告書作成：	3 月末

科目名(科目番号)
開講学年および期間
開講学科
担当者



質問番号	平均得点
1	4.3
2	4.2
3	4.1
4	4.3
5	4.3
6	4.3
7	4.0
8	4.3
9	4.2
10	4.1
11	3.9
12	3.7
平均	4.1

【自己評価とコメント】

授業全般的には一定の評価結果であったと思うが、今後、中学校の学習指導要領改訂を視野に入れて、より興味を持てる授業内容への改善を図りたい。

質問内容

- Q1. 先生の話し方は、明瞭で聞きやすかった。
 Q2. 授業の進め方は、早すぎず遅すぎず、適切であった。
 Q3. 黒板やプロジェクターなどの書き方や文字は、見やすかった。
 (体育) 実技の指導、器具の扱いについての説明は分かりやすかった。
 Q4. 学生の質問、提出した課題、答案の回答に対して、納得できるように丁寧に説明、指導してくれた。
 Q5. 授業の説明を通して先生の熱意や意欲を感じた。
 Q6. 教科書・問題集、実験指導書、プリントなどは理解しやすく、授業の参考になった。
 (体育) 実技種目のルールや目的など納得できるように説明してくれた。
 Q7. 授業・実験実習内容のレベルは、あなたにとって適切であった。
 Q8. 試験内容と授業は、関連が適切であった。
 Q9. 成績の評価方法は、適切なものであった。
 Q10. 私はこの授業に対して熱心な取り組みをした。
 Q11. 私はこの授業の学習内容を理解し、興味をもった。
 Q12. 私はこの授業に対して予習や復習をした。

回答番号(得点)

- 1:まったくあてはまらない, 2:ややあてはまらない, 3:どちらともいえない,
 4:ややあてはまる, 5:その通りだった。無回答分は集計していません。

電子計算機（2年）学習指導案

指導者：前田 弘文

日時	平成25年1月29日(火) 第1時限	
学科・学年	情報工学科第2学年	
場所	情報工学科第2学年固有教室	
単元指導計画		
主題	組合せ回路	
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出力が現在の入力状態のみから定まる論理回路(組合せ回路)を理解する. 2. 半加算器・全加算器について説明することができる. 3. エンコーダ・デコーダについて説明することができる. 	
実施時数	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組合せ回路(主加法標準形・主乗法標準形)(2時間) 2. 簡略化(ベン図・ブール代数の定理・カルノー図)(3時間) : 本時 3. 半加算器・全加算器 (2時間) 4. エンコーダ・デコーダ (1時間) 	
本時の指導計画		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既に学んだ論理演算子の公式を用いて, 加法形および乗法形への式変換を行い, 解法の理解を高めさせる. 2. 前回学んだ真理値表と新たに学ぶカルノー図, 論理演算の3つの関連性について理解を高めさせる. 	
指導課程	教授・学習内容	指導上の留意点
(導入) 10分	1. カルノー図による乗法形の簡略化について, 簡単化の手順を示す.	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを理解させる. ・解法を直感的に理解させる.
(展開) 5分	1. 本時で扱う問題を提示する.	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を理解させる.
5分	2. $\sim Z$ の加法形を求める.	<ul style="list-style-type: none"> ・復習であることを認識させる.
15分	3. カルノー図を描く. <ul style="list-style-type: none"> ・ド・モルガンの定理を用いて, カルノー図を使わない解法を提示する. ・真理値表を用いた場合の解法を提示する. 	<ul style="list-style-type: none"> ・カルノー図を理解させる. ・複数の解法を理解させる.
5分	4. 乗法形, 加法形を求める.	<ul style="list-style-type: none"> ・途中式を明確にする.
5分	5. 回路図を描く.	<ul style="list-style-type: none"> ・式と回路図を対比させる.
(まとめ) 5分	1. 再度, 全体を確認する.	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で行ったことを再確認させる.
備考	1. 使用教科書 森北出版 論理回路入門(第2版)	

Minute Paper

学年・クラス 情報工学科 2 年生

科目名 電子計算機 調査日 1 月 29 日 (火曜日) 1 時限目

問 1. 今日の授業でよく分かったことを書いてください。

- ・カルノー図の便利さ.
- ・ブール代数, 真理値表, カルノー図での解き方の違い(簡略方法).
- ・式のまとめ方.

問 2. 今日の授業で学んだことで分りにくかったことや, 疑問に思ったことがあれば, 具体的に書いて下さい。

- ・ブール代数で計算を行う理由.
- ・カルノー図の表の扱い方.
- ・真理値表での解き方.

問 3. 今日の授業における, あなたの授業態度の自己評価 (10 点法)。

平均 : 7.5

問 4. 今日の授業内容に対する理解の程度(10 点法)。

平均 : 7.8

問 5. 今日の授業に対する総合評価 (10 点法)。

平均 : 7.7

問 6. 今日の授業について, 自由に感想や意見を書いて下さい。

- ・いつも通り.
- ・ただノートに写すだけでなく, 自分で解くことができた.
- ・復習になってよかった.
- ・ノートを綺麗にまとめることができた.

研究授業総括記録

授業科目：電子計算機

担当教員：情報工学科 助教 前田 弘文

授業日時：2013年1月29日(火曜日)1時限目

クラス：情報工学科2年生

.....

2. 参観者の意見

(1) 良い点

- ・学生を黒板に向ける平素の指導も良く、熱心でした。
- ・シラバスや全体の流れの解説があった。
- ・テキストとの対応もあり、学生に分かりやすい。
- ・(式変形)間違いの原因を指摘しており、学生に有益。
- ・声の大きさ、熱意ともに十分感じられた。
- ・分かりやすい言葉で解説している。
- ・解説の際、板書のポイントを指差ししている。
- ・学生からの間違いの指摘に柔軟に対応している。

.....

(2) 改善すべき点

- ・板書を更に見易く計画されると良いのではないのでしょうか。
- ・黒板に集中しすぎ学生の方を向くよう意識した方がよい。
- ・以前の授業との相関ゆえに不親切な点もあった。
- ・たんとんと話している場面がある。

.....

(3) その他


- ・黒板はみづらい。ホワイトボードの方がよい。
- ・指導過程にあわせたため、焦りがあった。
- ・私語が少ない。
- ・ノートを書くことに必死になっている学生がいる。

.....

3. 学生及び参観者の意見を受けて今後の授業の改善に向けて (授業担当者)

私自身、初めての公開授業ということもあり、普段の授業と違って指導計画書に引張られていた点がありました。他の教員の先生方の指摘により、開始終了の挨拶を級長にまかせきりになっていたことにも気づかされました。

授業方法そのものについては、多くの指摘をいただき参考になる点が多々ありました。次年度以降は、授業中における学生とのコミュニケーションを活発に行っていくことで、対話的授業へと発展させ、授業改善に努めたいと思います。

認定教育校 

優秀校

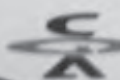
弓削商船高等専門学校 殿

貴校は平成24年度認定教育校表彰制度
における合格率部門において顕著な
成果を取められました
よってその栄誉をたたえここに賞します

2013年 2月 1日

公益財団法人 画像情報教育振興協会
東京都中央区銀座1-8-16

理事長 澤部正喜



CG-ARTS協会
公益財団法人 画像情報教育振興協会

第 2 章 組織及び運営 (弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則)

○弓削商船高等専門学校教育方針・教育目標に関する規則

制 定 平成22年 3 月 18 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、弓削商船高等専門学校学則第 1 条の 2、第 7 条の 2 及び第 43 条の 2 の規定に基づき、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）の教育方針及び教育目標について定めるものとする。

(教育方針)

第 2 条 本校の教育方針は、次のとおりとする。

- (1) 自然科学および専門技術の基礎力を身につけ、高度化かつ多様化してゆく科学技術に柔軟に対応できる人材の育成。
- (2) 身の回りの諸現象、特に海をとりまく自然・文化・歴史に好奇心を抱き、多角的に考えたり調べたりできる、独創力のある人材の育成。
- (3) 日本および世界の文化や社会に関心をもち、国際的視野でものがみられ、しかも人間として、技術者として高い倫理観をもった人材の育成。

(教育目標)

第 3 条 学科等ごとの教育目標は、次表のとおりとする。

学 科 等		教 育 目 標
教 養 教 育		幅広い視野に立った総合的な判断能力、斬新な創造力を備えた実践的技術者育成のための基礎的能力の涵養と教養の育成
専 門 教 育	商 船 学 科	船員教育を基盤にした海事総合科学を身につけた技術者の育成
	電 子 機 械 工 学 科	ものづくりのできる実践的な技術者－計画・設計から生産・保守運用までできる技術者－の育成
	情 報 工 学 科	情報リテラシー、情報工学の知識に加え、問題分析、解決能力を備えたシステム技術者の育成

2 専攻ごとの教育目標は、次表のとおりとする。

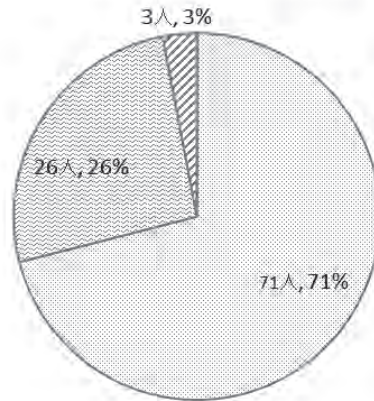
専 攻	教 育 目 標
海上輸送システム工学専攻	海上輸送システムや船舶機関システムに関する分野を中心とした専門的な技術を教育し、システムの運用、開発、商船学・工学的センスを身につけた実践的な海事管理技術者の育成
生産システム工学専攻	機械・情報系を中心とした複合的工業分野における専門的な知識と技術を教育し、瀬戸内海地域に貢献できるものづくりやシステム開発の能力と国際感覚をもつ実践的専門技術者の育成

附 則

この規則は、平成22年 4 月 1 日から施行する。

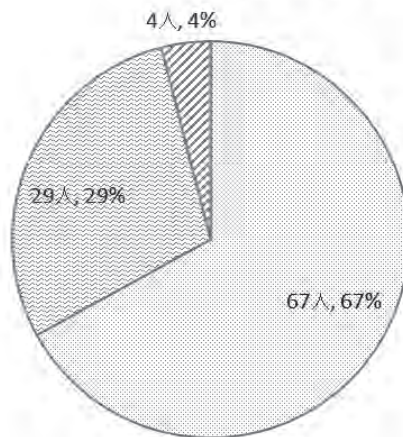
教 職 員

「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？



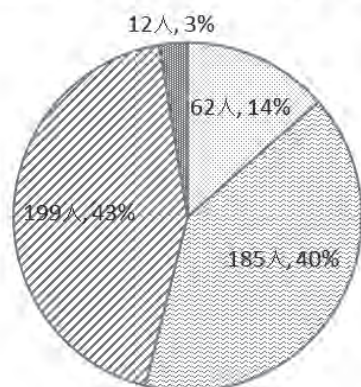
- 掲示・掲載場所、内容とも知っている。
- ▨ 掲示・掲載場所は知っているが、内容はよく知らない。
- ▩ 掲示・掲載場所、内容とも知らない。

「学科ごとの教育目標・専攻ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？



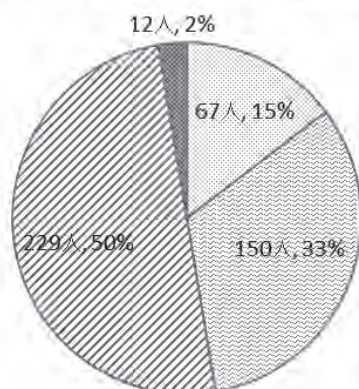
- 掲示・掲載場所、内容とも知っている。
- ▨ 掲示・掲載場所は知っているが、内容はよく知らない。
- ▩ 掲示・掲載場所、内容とも知らない。

「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？



- 掲載場所、内容とも知っている
- 掲載場所は知っているが、内容はよく知らない
- 掲載場所、内容とも知らない
- 無回答

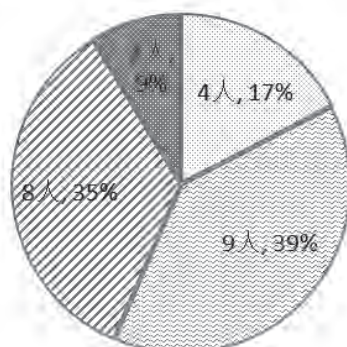
「学科ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？



- 掲載場所、内容とも知っている
- 掲載場所は知っているが、内容はよく知らない
- 掲載場所、内容とも知らない
- 無回答

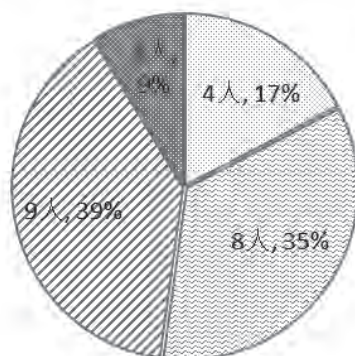
専攻科課程

質問1 「本校の教育方針」をどの程度知っていますか？①～③のうち1つ選んでください。



- ① 掲示場所, 内容とも知っている。
- ② 掲示場所は知っているが, 内容はよく知らない。
- ③ 掲示場所, 内容とも知らない。
- 無回答

質問2 「専攻ごとの教育目標」をどの程度知っていますか？①～③のうち1つ選んでください。



- ① 掲示場所, 内容とも知っている。
- ② 掲示場所は知っているが, 内容はよく知らない。
- ③ 掲示場所, 内容とも知らない。
- 無回答

アドミッションポリシー

「商船学科」

船や海に強い興味を持っている人

好奇心や探究心が強い人

自立心が強く根気力のある人

「電子機械工学科」

機械いじり・ものづくりに興味がある人

電気・電子工作に興味がある人

コンピュータを使った「もの」の操作に興味がある人

「情報工学科」

コンピュータを使いこなしたい人

コンピュータのしくみに興味がある人

コンピュータで何かをやろうと考えている人

専攻科

「海上輸送システム工学専攻」

工学的素養を身につけ海事関係分野で活躍したい人

海上輸送管理技術を身につけ社会で活躍したい人

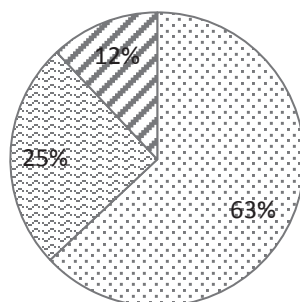
「生産システム工学専攻」

手と頭脳が同時に働く実践的技術者を目指す人

コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

「アドミッションポリシー」をどの程度知っていますか？

- 掲示・掲載場所、内容とも知っている。
- 掲示・掲載場所は知っているが、内容はよく知らない。
- 掲示・掲載場所、内容とも知らない。



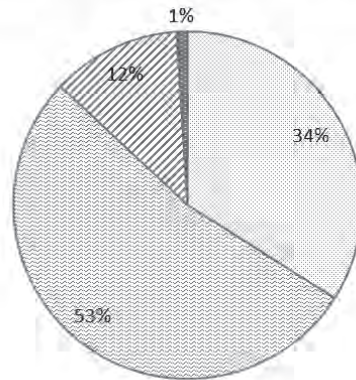
平成24年度シラバス作成要領について

1. 記入に当たっては、できるだけ学生が理解しやすいような平易な表現を用いてください。
2. 作成要領（記入例を参考に記入してください。）
 - ①**授業科目**：授業科目名を記載してください。
 - ②**担当教員**：教員名を記載してください。多数の教員で担当する場合は代表教員の氏名を記載し、その他の教員名は学習内容の欄の中に記載してください。
(例えば、卒業研究、工学実験、工作実習などにおいて。)
 - ③**学 科**：商船学科、電子機械工学科、情報工学科 など記載してください。
 - ④**学 年**：1年、2年、3年、4年、5年 など記載してください。
 - ⑤**授業期間**：通年、前期、後期 など記載してください。
 - ⑥**単 位 数**：1、2、3、4、5 など記載してください。
 - ⑦**分 野**：一般、専門 など記載してください。
 - ⑧**授業形態**：講義、実験、実習、演習、実技 など記載してください。
 - ⑨**履修区分**：必修、選択 など記載してください。また**学修単位**は括弧書きで記入してください。
 - ⑩**学習目標**：学習の到達目標や概要を記述してください。
 - ⑪**進め方**：授業の方法を記述してください
 - ⑫**学習内容**：学習内容の項目と時間数を記載してください。
学習項目欄の最初に学習内容のガイダンスを必ず入れてください。
30単位時間の授業をもって1単位とする（定期試験は除く。）。
 - ⑬**評価方法**：試験、レポート、小テスト、出席状況、授業態度などの成績評価方法を記載してください（出来るだけ具体的に数値で表現してください。）。
 - ⑭**関連科目**：本授業科目と関連性のある授業科目名を記載してください。
 - ⑮**教科書等**：教科書、参考書など、書名・著者・発行所の順に各枠内に記載してください。
 - ⑯**備 考**：到達目標に達しない場合の学生への対応（補習、補講など）、学修単位の科目については「1単位当たり〇〇時間の自学自習を必要とする。」と明記し、その他留意事項などを記述してください。
3. 文章は、**Word** か **Excel** を使用し、字のスタイルはMS明朝で作成してください。
4. ファイル名は**24シバス(ｸﾗｽ 授業科目名 担当教員名)**としてください。また必ず**1ページ**に収めてください。
5. 学科等の代表者への提出期限：**1月31日（火）**
6. 学科等の代表者がまとめて、USBメモリにて教務係に提出してください。
(学科等の代表者へは平成23年度の学科等分のシラバスをUSBメモリに入れてお渡します。配付・取りまとめ方よろしくお願ひします。)

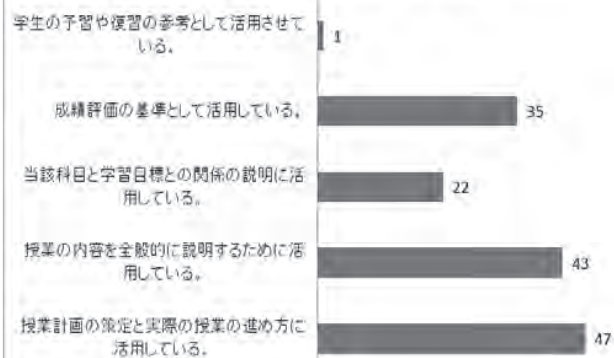
教員アンケート結果

「シラバス」をどの程度活用していますか？

- よく活用している。 ある程度活用している。
 あまり活用していない。 全く活用していない。

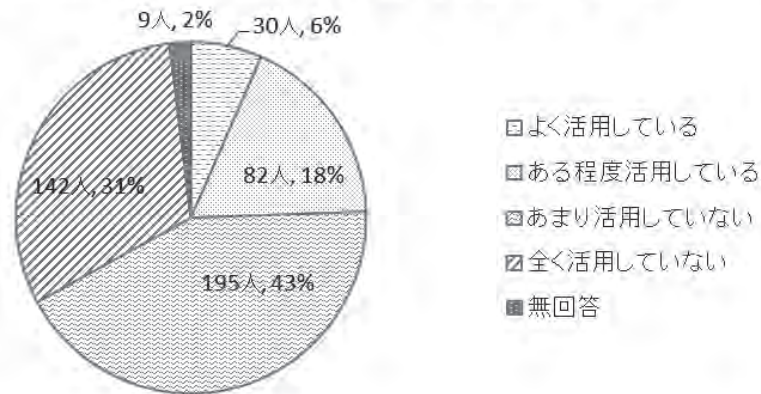


シラバスの活用状況について（人数）

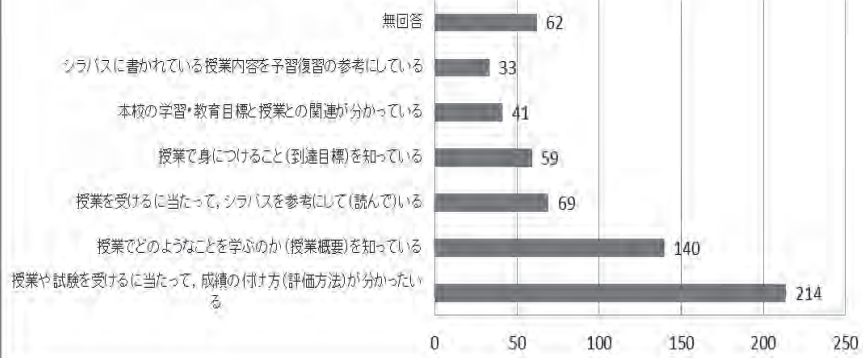


学生アンケート結果

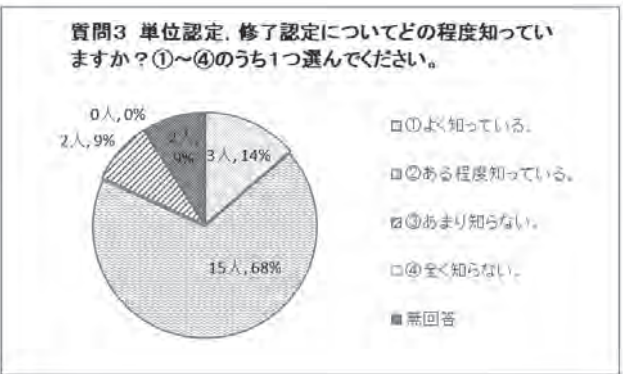
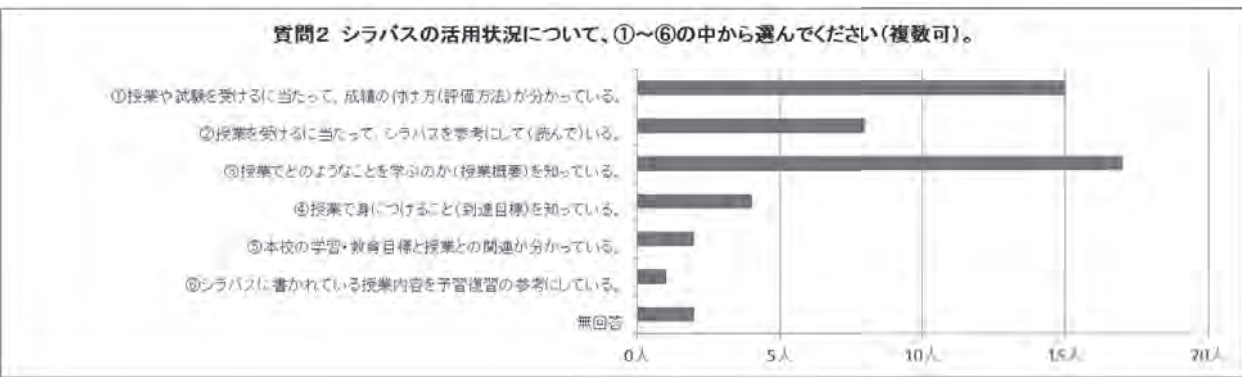
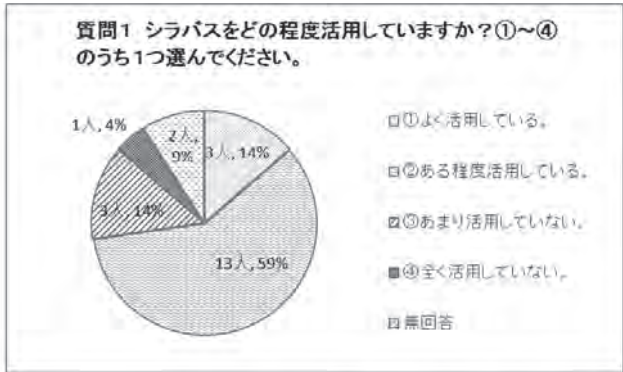
シラバスをどの程度活用していますか？



シラバスの活用状況について

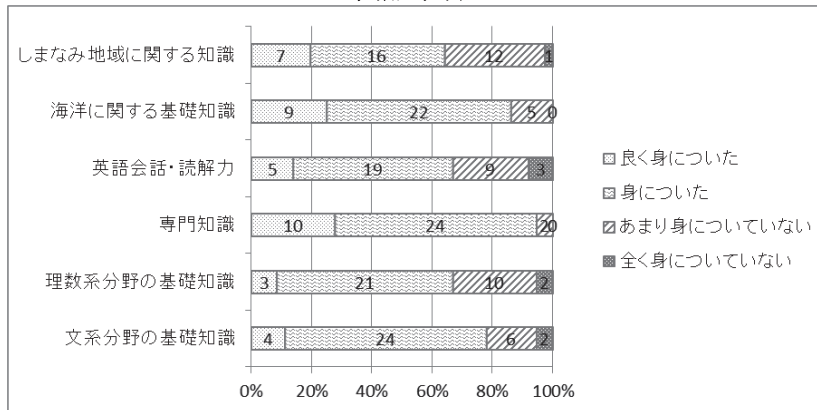


本校専攻科のシラバスの活用に関するアンケート

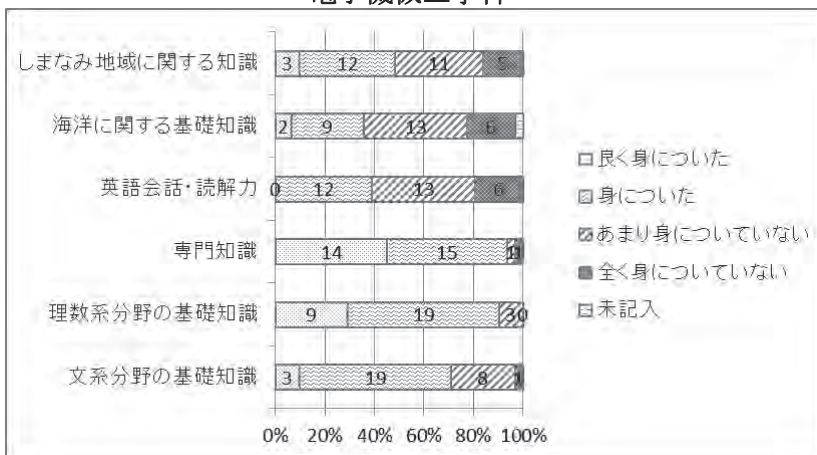


学習到達度アンケート集計結果（準学士課程 5 年生対象）

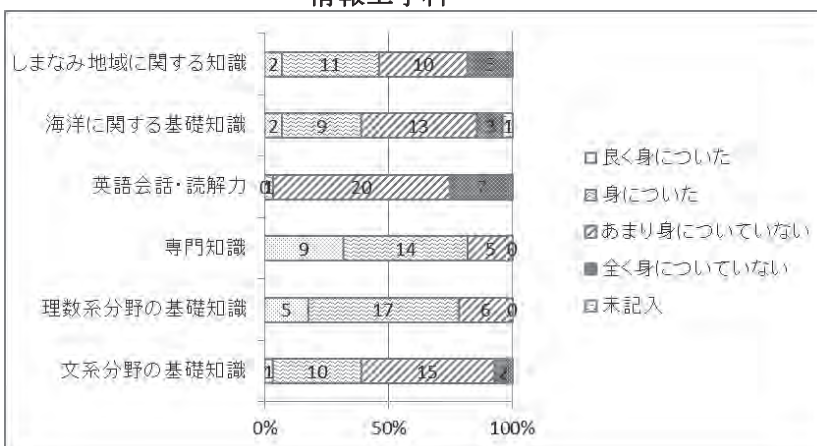
商船学科



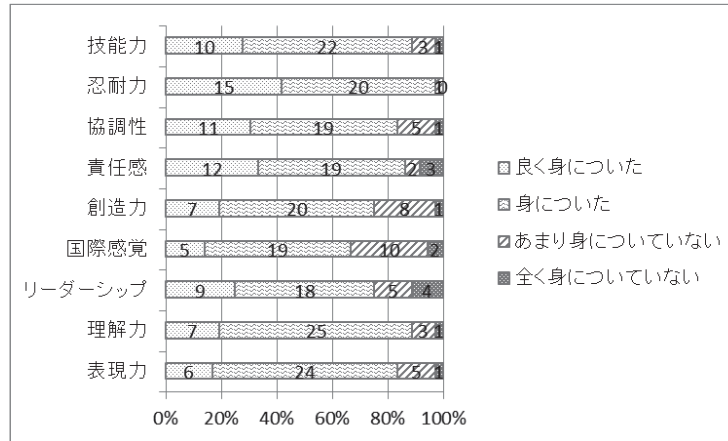
電子機械工学科



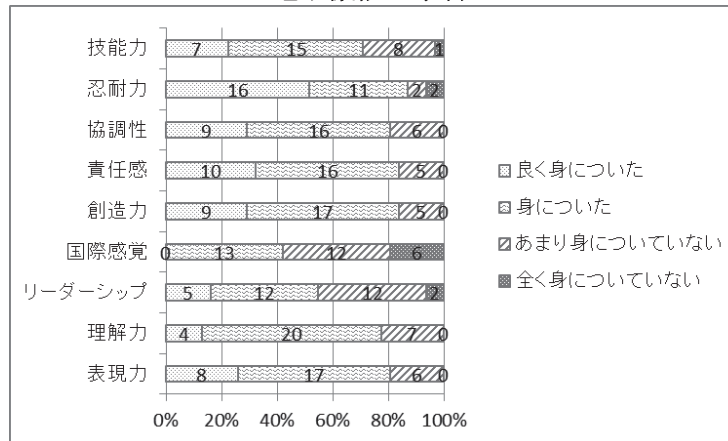
情報工学科



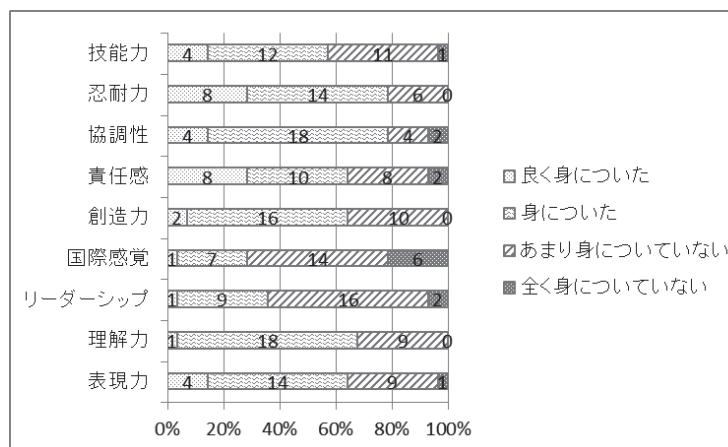
商船学科



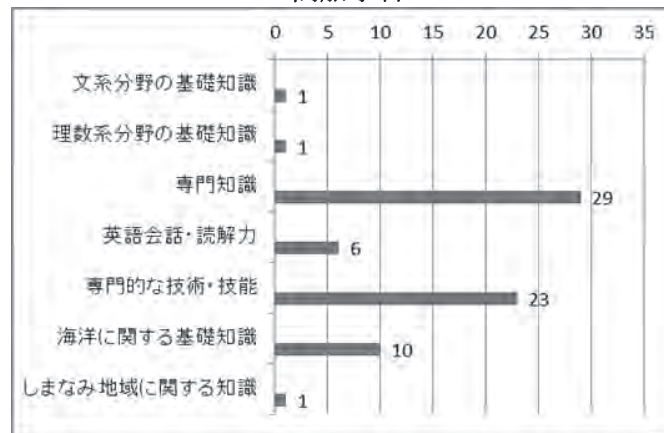
電子機械工学科



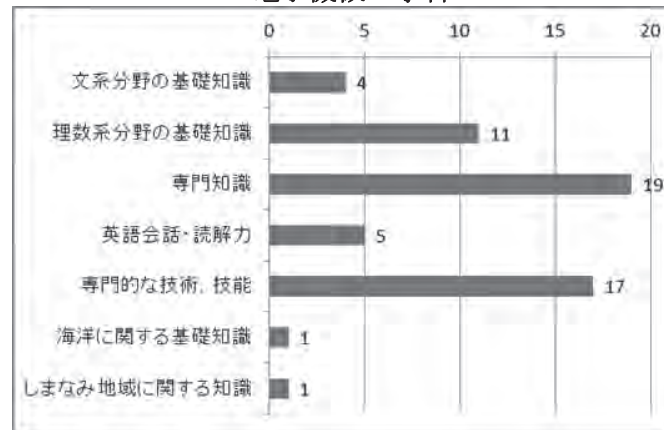
情報工学科



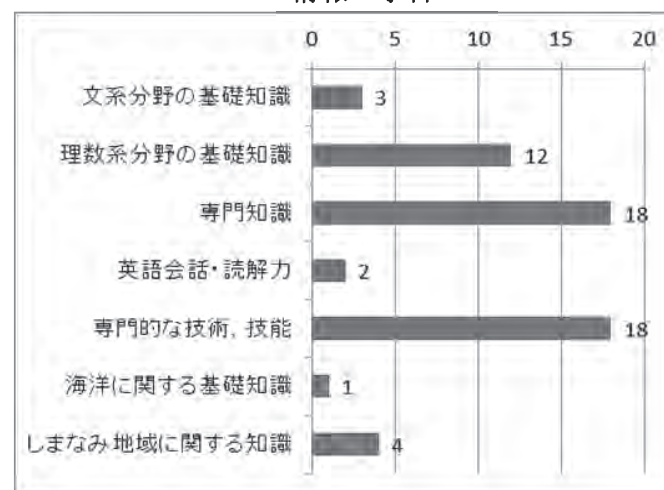
商船学科



電子機械工学科

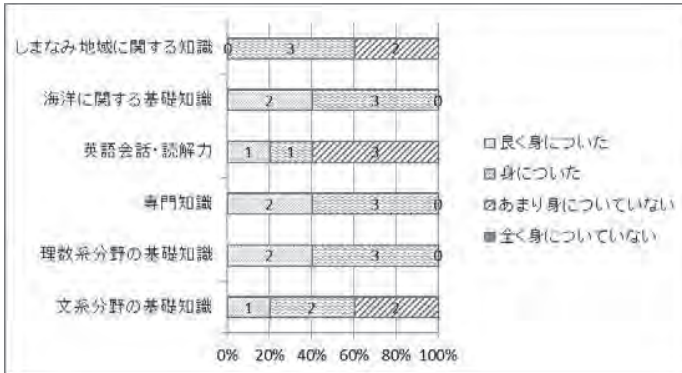


情報工学科

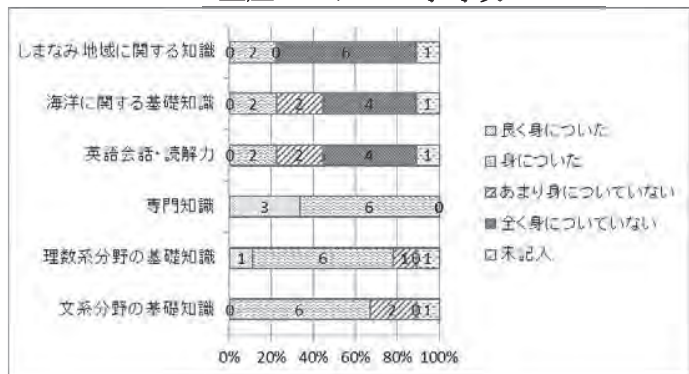


学習到達度アンケート集計結果（専攻科2年生対象）

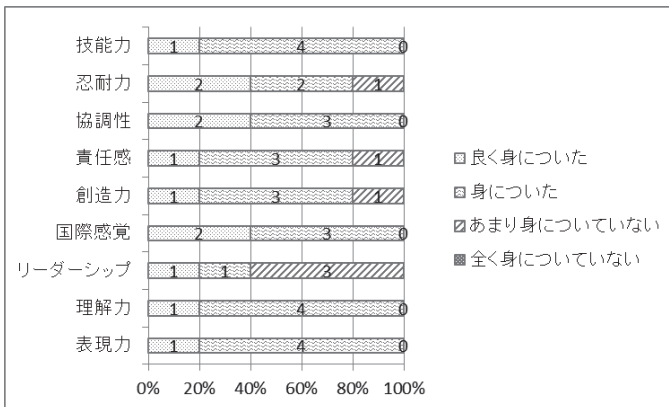
海上輸送システム工学専攻



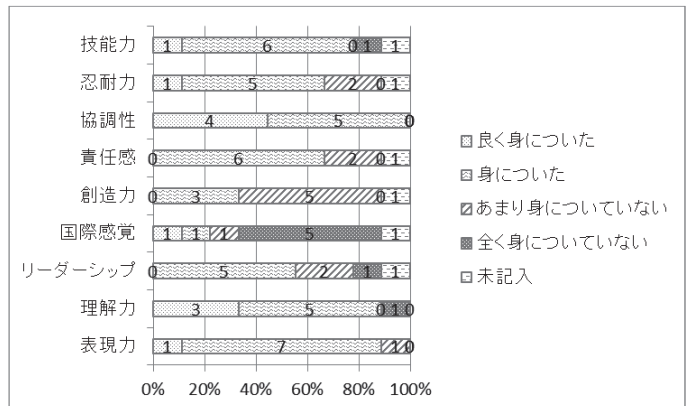
生産システム工学専攻



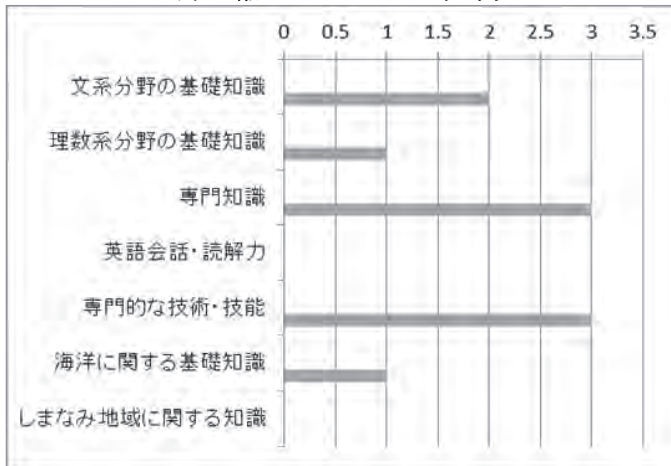
海上輸送システム工学専攻



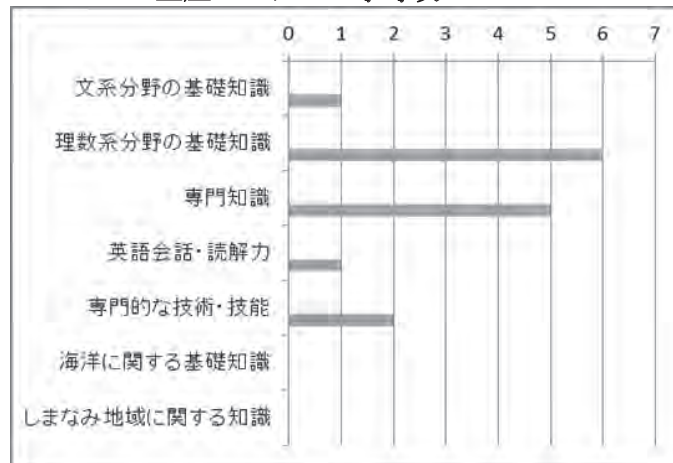
生産システム工学専攻



海上輸送システム工学専攻



生産システム工学専攻



卒業(修了)生の就職企業先へのアンケート結果

回収率 49.4% (3/21現在)

【82社/166社】

1. 御社の所属する分野を選択してください。

イ. 海事産業である	41
ロ. 海事産業でない	37
未回答	4

2. 本校卒業(修了)生の学力についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	10		
ロ. 専門知識	40	なし	1
ハ. 実技系	25	機械操作	1
ニ. その他	4	行動力	1
未回答	5	全体的に優れている	1

・劣っている分野は何ですか。

イ. 一般教養知識	38		
ロ. 専門知識	8	特になし	7
ハ. 実技系	13	コミュニケーション	1
ニ. その他	16	分からない	1
未回答	9	語学力	1
84		知識、技術については問題ありませんが他者とのコミュニケーションを苦手とする傾向あり	

3. 本校卒業(修了)生の資質についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 実践力	41	ニ. 応用力	12	なし	2
ロ. 創造力	1	ホ. 表現力	9	本人の資質による	1
ハ. 判断力	6	ヘ. その他	7	素直、努力家	1
		未回答	5	なぐられ強い	1
				全体的に優れている	1
				就業期間が短かった為判断不可	1

・劣っている点は何ですか。

イ. 実践力	7	ニ. 応用力	11		
ロ. 創造力	10	ホ. 表現力	24	特になし	3
ハ. 判断力	8	ヘ. その他	13	本人の資質による	1
		未回答	9	コミュニケーション能力	2
				就業期間が短かった為判断不可	1

4. 本校卒業(修了)生の性向についてお答えください。(ひとつ選んでください。)複数回答有

・優れている点は何ですか。

イ. 協調性	34	ニ. 礼儀正しさ	24
ロ. 積極性	3	ホ. 責任感	19
ハ. 国際性	0	ヘ. その他	0
		未回答	4

・劣っている点は何ですか。

イ. 協調性	4	ニ. 礼儀正しさ	1		
ロ. 積極性	35	ホ. 責任感	7	特になし	1
ハ. 国際性	19	ヘ. その他	8	英語力	1
		未回答	10		

卒業(修了)生へのアンケート結果

回収率 26.4% (3/21現在)

【85名/322名】

1. 卒業(修了)学科についてお答えください。

イ. 商船学科	20
ロ. 電子機械工学科	26
ハ. 情報工学科	26
ニ. 専攻科生産	13
ホ. 専攻科海上	0

2. 本校で特に身に付けることができた知識は何ですか。(複数回答有)

イ. 一般教養知識	10
ロ. 専門知識	48
ハ. 実技系の技能	26
ニ. その他	4・ ・社交性 1
未記入	1

3. 自分の身に付けた知識が、発揮できていると思いますか。

イ. 発揮できている	31
ロ. 発揮できていない	14
ハ. どちらとも言えない	39
未記入	1

4. 在学中、どの分野に力を入れて勉強すれば良かったですか。(複数回答可)

イ. 語学	32	ト. 電気・電子系応用分野	17
ロ. 数学	15	チ. 機械系応用分野	22
ハ. 物理・化学	10	リ. 情報工学(ソフト系)	22
ニ. 専門基礎学(力学、電気、応数など)	36	ヌ. 情報工学(ハード系)	23
ホ. 商船学(航海系)	5	ル. 情報工学(周辺応用技術)	18
ヘ. 商船学(機関系)	11	オ. その他	4
		・IT	1
		・資格勉強(取得)	1
		・読書術	1
		(学習するための方法論を得てはじめて学習がおもしろくなるから)	

5. 在学中に受けた就職・進学指導は適切でしたか。

イ. 適切であった	47
ロ. 適切ではなかった	10
ハ. どちらとも言えない	28

6. 課外活動の経験は現在活かされていますか。

イ. 活かされている	43
ロ. 活かされていない	9
ハ. どちらとも言えない	33

以下は、寮生活を体験した人にお聞きます。

【48名/寮生】

7. 寮生活の経験は現在役に立っていますか。

イ. 役に立つ	39
ロ. 役に立たない	2
ハ. どちらとも言えない	7

8. 寮の設備はどうでしたか。

イ. 十分である	29
ロ. 不十分である	11
ハ. どちらとも言えない	7
未記入	1

9. 寮生活で得たものは何ですか。(複数回答可)

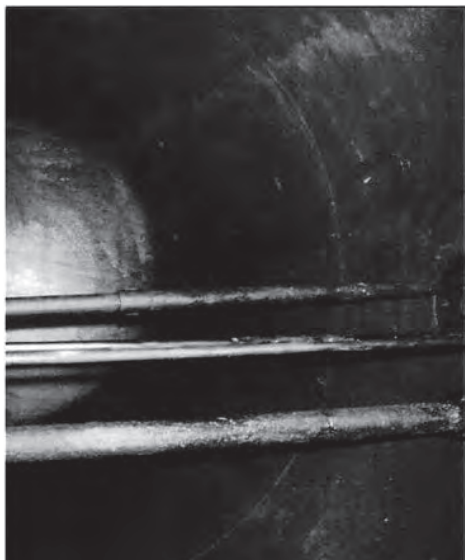
イ. 友人	37	ホ. 積極性	6
ロ. 礼儀正しさ	13	ヘ. 独立心	21
ハ. 正しい生活習慣	13	ト. 忍耐力	24
ニ. 協調性	27	チ. その他	0

平成24年度 施設・設備工事

(1) 運営費交付金事業（営繕事業）

事業名 地下タンク改修工事

現地写真



1-1 着工前写真
（日比地区タンク内）



1-2 完成検査写真
（日比地区タンク内膜厚検査）



2-1 着工前写真
（校舎地区実習工場
ボイラー室地下タンク用
液面計測器）

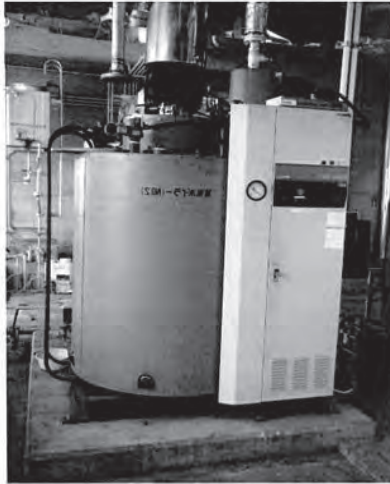


2-2 完成写真
（校舎地区実習工場
ボイラー室地下タンク用
高精度液面計測器へ取替）

(2) 運営費交付金（学内経費）

事業名 学生寄宿舍ボイラー設置工事

現地写真



1-1 着工前写真
（日比地区食堂棟
ボイラー室旧小型貫流ボイラー）



1-2 完成検査写真
（日比地区食堂棟
ボイラー室新小型貫流ボイラー）

弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会名簿

委員長	校 長	木 村 隆 一
委 員	教 務 主 事	多 田 光 男
〃	学 生 主 事	葛 目 幸 一
〃	寮 務 主 事	上 江 憲 治
〃	広 報 主 事	益 崎 真 治
〃	企画・評価担当副校長	濱 中 俊 一
〃	商 船 学 科 長	高 岡 俊 輔
〃	電子機械工学科長	藤 本 隆 士
〃	情 報 工 学 科 長	長 尾 和 彦
〃	総 合 教 育 科 長	神 谷 正 彦
〃	専 攻 科 長	塚 本 秀 史
〃	図 書 館 長	高 木 洋
〃	情報処理教育センター長	田 房 友 典
〃	地域共同研究推進センター長	木 村 隆 則
〃	商 船 学 科	友 田 進
〃	電子機械工学科	藤 本 隆 士 (再掲)
〃	情 報 工 学 科	葛 目 幸 一 (再掲)
〃	総 合 教 育 科	水 崎 一 良
〃	事 務 部 長	森 原 良 治
〃	技術支援センター長	中 哲 夫
幹 事	総 務 課 長	横 田 裕 一
〃	学 生 課 長	藤 沢 博 伸